

第1章

センター研究1 (2年計画・2年次)

情報モラル教育の 充実に向けた指導プランの提案



目 次

I	研究の概要	
1	研究の背景	1
2	研究のねらい	2
3	研究の仮説	2
4	研究の内容	2
II	研究の実際	
1	アンケート調査による情報モラル教育の現状と課題の把握	
(1)	秋田県小学校教員へのアンケート調査	3
(2)	保護者（男鹿市・潟上市）へのアンケート調査	4
2	小学校情報モラル教育系統表と情報モラル教育に関する指導プランの作成	
(1)	小学校情報モラル教育系統表	4
(2)	小学校中学年を対象とした情報モラル教育に関する指導プランの作成	5
3	指導プランの実践	
(1)	研究協力校の児童と保護者へのアンケート調査	7
(2)	学習活動例の実践	7
(3)	情報モラルクイズ	9
4	指導プランの分析	
(1)	指導プランを通じた児童の変容	9
(2)	指導プランを通じた保護者の意識の変化	9
(3)	協力校から見た指導プランの妥当性	10
III	研究のまとめ	
1	本研究の成果と課題	
(1)	本研究の成果	13
(2)	本研究の課題	13
■	資料	14
■	引用・参考文献	38

I 研究の概要

1 研究の背景

情報モラルは、学習指導要領解説において「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」と定義付けされており、具体的には「他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつこと」や「危機の回避など情報を正しく安全に利用できること」「コンピュータなどの情報機器の使用による健康との関わりを理解すること」などとなっています。本県では「令和3年度学校教育の指針」に「ICTを活用した教育の推進」の項目が新設され、令和4年度以降も継続して「組織的・計画的に取り組む情報モラル教育の充実」が求められています。なお、令和3年度に策定された「秋田県学校教育ICT活用に関する指針」では、四つの基本目標が掲げられており、具体的な施策や取組内容として「ネットリテラシー・情報モラル・セキュリティ教育の推進」が示されています。

GIGAスクール構想の進展とコロナ禍での学びの保障の観点から、1人1台端末の整備が秋田県でも加速度的に進みました。令和2年度内に秋田県内の全ての小・中学校及び県立学校において配備が完了するとともに、校内の通信環境が整いました。令和3年度には、各校で試行錯誤しつつ、各教科等の授業においてICTが活用されており、家庭に持ち帰らせて活用させる取組も増えてきています。また、

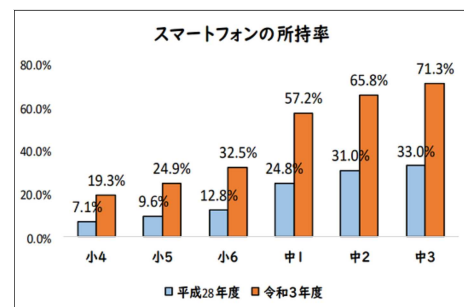


図1 スマートフォンの所持率

児童生徒のスマートフォン所持率は年々増加しており、義務教育課が行った調査結果を令和3年度と平成28年度で比較すると、小学校第4学年から中学校第3学年までの全ての学年で2倍以上になっています。特に、小学校第4学年の時点で既に約20%の所持率になっています(図1)。このように、児童生徒が通信機能付き端末に触れる機会が増えても、同調査における家庭での通信機能付き端末のルールの設定率は、平成28年度が58.1%、令和3年度が63.2%と微増にとどまっており、課題が見られます。

秋田県内では授業におけるICT活用が進む中、各教科等での様々な実践例や先行研究が示されていますが、情報モラル教育の取組や実践例はあまり見られません。また、情報モラル教育の全体計画に沿って指導が行われている学校もありますが単発的な取組であったり、教員個々に任せられていたり、組織的かつ継続的な取組としては十分とはいえない状況もあります。さらに、保護者の中には各種端末の使用に関する知識や情報が不足していたり、児童生徒の端末利用への関心が低かったりするなどの課題が見られます。今日、児童生徒の家庭での通信機能付き端末の使用場面は増えており、学校生活に影響を及ぼすような事案にも関わらず、学校が関与しにくく、対応に苦慮している様子が見受けられま

す。このような状況下において、組織的に情報モラル教育の充実を図ることや家庭との連携を強化することが喫緊の課題となっており、その対応が求められています。

2 研究のねらい

以上の背景を踏まえ、学校全体で情報モラル教育を推進していくための手立てとして、小学校情報モラル教育系统表を作成し、それに基づいた、情報モラル教育に関する指導プランを作成します。情報通信ネットワークを通じた人との関わりが増え始める段階で情報の扱いなどに関する知識をもつことが、情報社会を生き抜くための資質・能力を身に付ける上で効果的があると考え、指導プランの対象は小学校中学年とします。これらの取組により、

本県が目指す「自ら判断して情報端末を正しく活用する力を育成する指導」を具現化するとともに、ICT活用における家庭との連携の在り方の方向性を示すことで、組織的に進める情報モラル教育の充実を図ることをねらいとします（図2）。

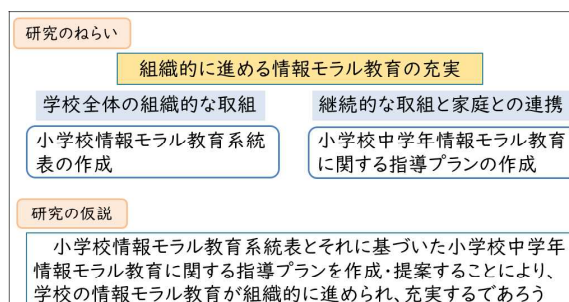


図2 研究のねらいと仮説

3 研究の仮説

小学校情報モラル教育系统表とそれに基づいた小学校中学年情報モラル教育に関する指導プランを作成・提案することにより、学校の情報モラル教育が組織的に進められ、充実するであろう。

4 研究の内容

本研究は2年計画で進めます（図3）。1年次となる令和4年度は、アンケート調査等により、情報モラル教育の現状や課題、児童と保護者の実態を把握しました。そして、小学校情報モラル教育系统表（以下、系統表）を作成し、それを基に、小学校中学年を対象とした情報モラル教育に関する情報モラル教育に関する指導プラン（以下、指導プラン）を作成しました。2年次は、研究協力校において児童と保護者の実態の把握を行うとともに、指導プランを実践しました。実践で得られたデータを基に、小学校中学年を対象とした指導プランの修正や追加作業を行い、当センターウェブサイトを通じて提案・発信しました。

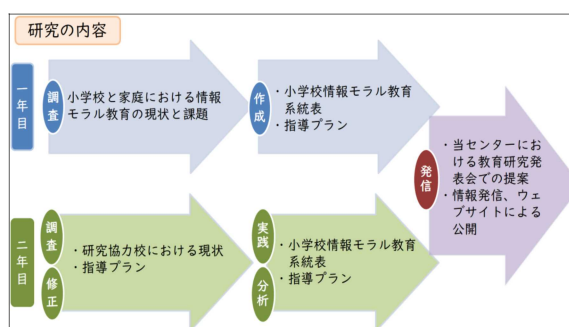


図3 研究の内容

Ⅱ 研究の実際

1 アンケート調査による情報モラル教育の現状と課題の把握

(1) 秋田県小学校教員へのアンケート調査

本研究1年次は、5・6月に当センターで行われた研修講座の受講者を対象とし、情報モラル教育に関するアンケート調査を実施しました。調査を実施した研修講座及び対象人数は、実践的指導力向上研修講座（小学校8年目）26名、小学校新任校長研修講座38名、小学校新任教頭研修講座40名、小学校新任教務主任研修講座31名、小学校新任研究主任研修講座45名、小学校新任生徒指導主事研修講座26名の合計206名でした。

アンケートの項目は、「学校全体で情報モラル教育が十分に行われている」「児童生徒には情報モラルが身に付いている」「家庭での情報モラル教育が十分に行われている」などとし、それぞれ「とても思う」「思う」「あまり思わない」「思わない」の4段階の選択肢から回答してもらいました。項目「学校全体で情報モラル教育が十分に行われている」では、「とても思う」「思う」と回答した人の割合が64.6%であり、肯定的評価の理由記述では、「全職員で共通理解を図り実施している」

「年間指導計画に従って情報モラル

教育を行っている」「外部講師の活用や道徳科、学級活動でも実施している」などの意見があり、情報モラル教育が充実している学校では、組織的・計画的に取り組んでいることがうかがえました。一方、否定的評価の理由記述欄からは、「情報モラル教育が学校全体で年間を通して継続して行われていない」「教師個々に任せられている」「教師の意識に差がある」など、組織的な取組に改善の余地があることが分かりました。また、項目「家庭での情報モラル教育が十分に行われている」の「あまり思わない」「思わない」と解答した人の割合は74.0%という結果となりました（図4）。否定的評価の理由記述には、「家庭による意識の差が大きい」「保護者がルールを守らせることができていない」「児童の生活習慣に悪影響を及ぼしている事例が見られる」「フィルタリングをかけていない」「指導を学校任せにしている」などが挙げられており、家庭によって意識の差があると捉えていることがうかがえました（図4）。

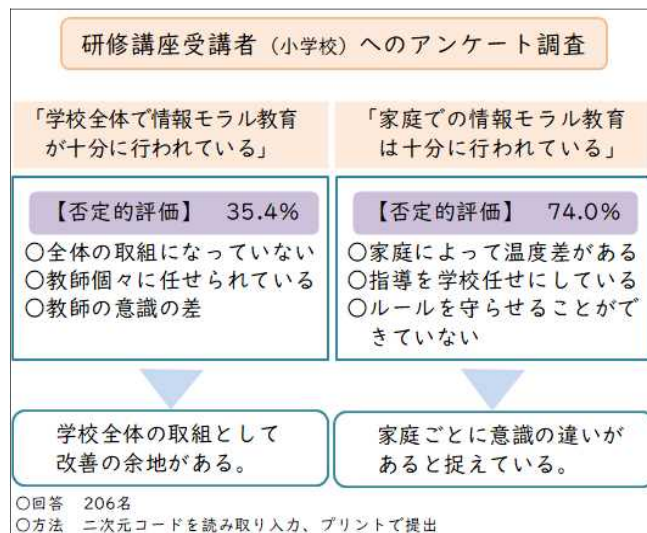


図4 アンケート調査で明らかになった課題

(2) 保護者（男鹿市・潟上市）へのアンケート調査

県教委と教育に係る連携を行っている男鹿市・潟上市の小学生の保護者を対象に、情報モラル教育についてのアンケート調査を実施しました。

通信機能付き端末利用について、項目「家庭のルールや約束はあるか」で90.0%の家庭がルールがあると回答しましたが、「その約束を守っていない」と回答した割合が32.1%でした（図5）。また、項目「子どもの通信機器の使用時間は長いと思うか」に対して、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合が63.1%であり、半数以上の家庭で通信機能付き端末の使用時間の長さを懸念していることがうかがえました。さらに、「家庭での使用時間が長い」と回答した保護者のうち、52.0%が「子どもはルールや約束を守っていない」と回答しており、家庭の中でもルールに対する意識の差があること、困っている保護者がいることが分かりました。

教師と保護者へのアンケート調査の結果から、家庭内で児童が約束やルールを守らないなどの困り感がある一方、学校の家庭内への関わりづらさや学校で行われている情報モラル教育の内容が家庭に伝わっていない状況が見えてきました。

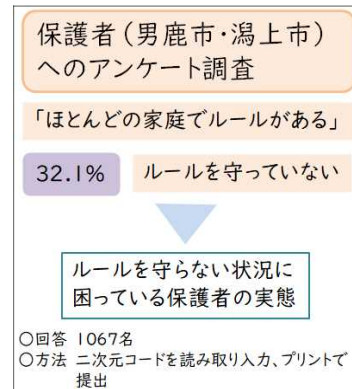


図5 保護者アンケートの調査結果

2 小学校情報モラル教育系統表と情報モラル教育に関する指導プランの作成

前節のアンケート調査の結果から、現在個々に行われている取組をつないで、学校全体の取組とし、児童の情報モラルを向上させていくためには、どの内容をどの学年で指導するとよいか分かる一覧が必要であることと、学校と家庭が連携して、組織的な情報モラル教育を推進していくこと、の二つの課題が見えてきました。そこで、これらの課題解決に向けた方策として系統表を作成することにしました。そして、発達の段階に応じた、学校全体での情報モラル教育の実践を支援します。また、その系統表を基に、情報モラル教育に関する指導プランを作成し、指導時間不足の解消や指導する教師への支援、家庭との連携を促し組織的な取組へとつなげます。

(1) 小学校情報モラル教育系統表

情報モラル教育を学校全体で組織的に推進するために、文部科学省や秋田県教育委員会、他県の情報モラル教育に関する資料等を参考に、小学校の低学年、中学年、高学年の各発達の段階に応じた系統表を作成しました。系統表の指導項目には、「ルール・マナー」「法と権利」「セキュリティ」「安全」「健康」の五つを提示するとともに、全ての項目に係る資質・能力として、「コミュニケーション」と「問題解決」を提示しました（図6）。学校全体で無理なく取り組むことができるよう、内容は情報モラルの基本的な知識を中心としました。



図6 小学校情報モラル教育系統表の構成

(2) 小学校中学年を対象とした情報モラル教育に関する指導プランの作成

系統表を基に指導プランを作成しました。指導プランは「学習活動例」「情報モラルクイズ」「道徳科の学習指導案」の三つから構成されています(図7)。指導プランの作成に当たり、情報モラルに関する知識及び技能の育成につながるもの、朝の会や帰りの会などを利用し、短時間で取り組むことができるもの、事案を自分のこととして自覚したり、リスクの程度を自ら考えたりできるものとなるよう配慮しました。

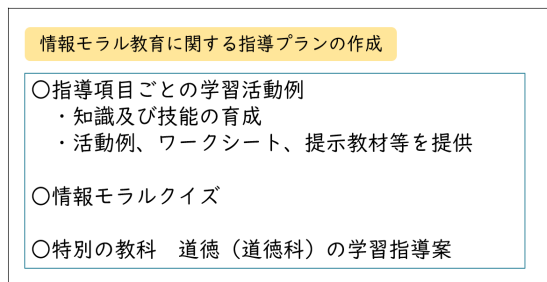


図7 情報モラル教育に関する指導プランの構成

①学習活動例について

学習活動例は、年間を通して継続した指導ができるよう、各指導項目の具体的な内容の10例を作成しました(図13)。

活動例の構成は、指導項目、指導項目の分類と指導内容、指導のねらいを記載し、専門的な用語には解説を載せています。活動例として、学習活動と教師の主な支援を記載し、発問や説明の例を示すことで、情報モラルの指導について不安を抱えている教師を支援します。15分という短時間で実施するため、できるだけ説明や学習活動を焦点化しています(図8)。

授業者が活動の展開をより具体的にイメージできるとともに、指導の再現性を高められるように、「教師の発話例付き活動例」を追加しました(図9)。

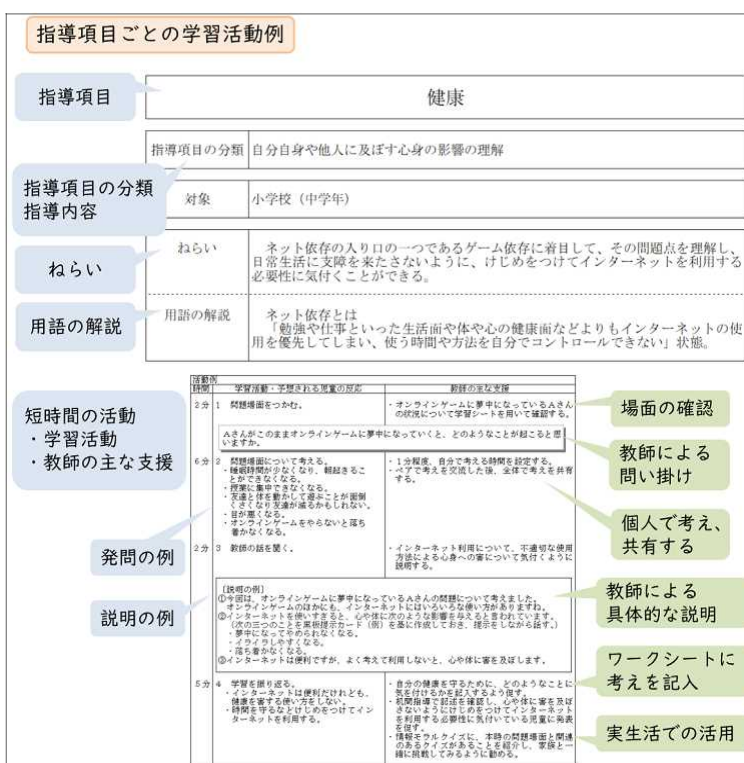


図8 学習活動例の構成

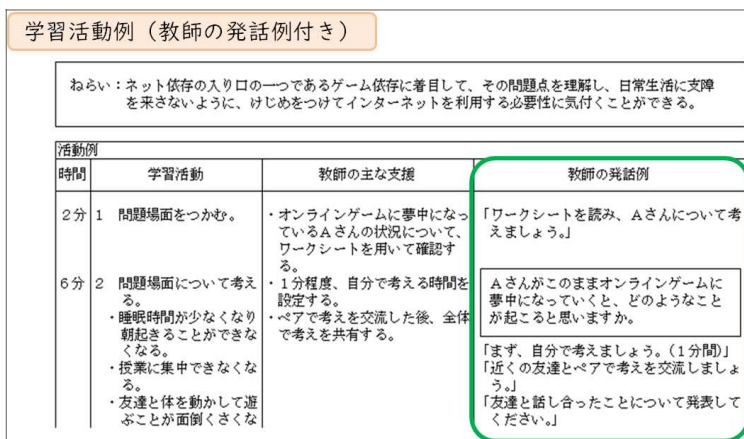


図9 学習活動例(教師の発話例付き)

学習活動例には、それぞれ提示教材やワークシートがあります（図10、11）。

図10は学習活動例「10 自分自身や他人に及ぼす心身の影響」の提示教材です。児童が実際に起こるかもしれない状況の実感をもつことで、学習活動のねらいである、日常生活に支障を来さないよう、はじめをつけてインターネットを利用する必要性に気付き、その気付きをワークシートに記入します（図11）。このように短時間の学習を積み重ねることで、情報モラルに関する知識を蓄積し、よりよく行動しようとする意欲を育みます。



図10 提示教材



図11 ワークシート

②情報モラルクイズ

長期休業中などに児童が1人1台端末を持ち帰ることに着目し、親子で取り組む情報モラルクイズを作成しました（図12）。クイズの内容は、系統表の指導項目や学習活動例に基づいて構成しています。情報モラルクイズに関する基礎的な知識を正誤形式で答え、それぞれの問題に対する解説を掲載することで内容の定着を図ります。親子で情報モラルクイズに取り組み、話し合える機会を設けることにより、保護者は児童が学校で学んでいる内容や家庭のルールや家庭のルールの必要性を再確認することができ、学校と家庭が連携して情報モラル教育を推進していくことができると考えました。



図12 情報モラルクイズ

③道徳科の指導案について

学習活動例や情報モラルクイズによって積み重ねられてきた情報モラルに関する知識を、よりよく行動しようとする意欲につなげるために、情報モラルに関する内容を取り扱った道徳科の学習指導案を2例、作成しました。情報モラルに関わる題材を生かした話合いを通し、他者への共感や思いやり、法やきまりのもつ意味などについて、自分との関わりで捉え、児童自らが考えを深めることができる学びの場とします。

3 指導プランの実践

(1) 研究協力校の児童と保護者へのアンケート調査

指導プランの実施に当たり、研究協力校の児童と保護者に対してアンケート調査を実施しました。実施時期は、指導プランの実践前の6月と、実践後の11月の2回です。

1回目は、系統表の指導項目に当たる内容に、端末等の所持や利用状況に関する内容を加え、情報モラル教育に関して幅広く調査しました。2回目は、系統表の指導項目に当たる内容に絞り、指導プラン実施による変容を把握できるようにしました。

保護者への調査において、項目「学校全体で情報モラル教育が十分に行われている」では、「取り組んでいる」の割合が71.2%となっており、研究1年次に実施した保護者へのアンケート調査とほぼ同じ傾向が見られました。

(2) 学習活動例の実践

実施する学習活動例は、児童の実態を考慮して、学級担任が判断しました。学習活動例のうち2、6、8番の学習活動例が複数校で実施されました。道徳科では1校がコミュニケーションについて実施しました（図13）。

指導項目	学習活動例	A小学校	B小学校	C小学校
ルール・マナー	1 ネットいじめに遭遇したときの対処方法（チャット上での悪口）	10月		
	2 捉え方の違い、発信内容のよしあしの理解（メール上での言葉）	7月	7月	7月
	3 情報を共有することの理解（付箋の書き換え）			
	4 インターネット上での他者との関わり方の理解（ネットで知り合う）	9月		
法と権利	5 情報に関する自分や他者の権利（SNSの書き込み）			
	6 情報に関する自分や他者の権利（写真の撮り方）	6月	7月	
セキュリティ	7 強力なパスワードの重要性（他と共通したパスワードの使用）			
安全	8 個人情報を共有することのリスク（IDとパスワードを教える）	9月		6月
健康	9 情報メディアの利便性と危険性の理解（フェイクニュース）			
	10 自分自身や他人に及ぼす心身の影響の理解（ゲーム依存）	7月		
指導項目	学習指導案（特別の教科 道徳）	A小学校	B小学校	C小学校
コミュニケーション	道徳科①節度、節制（約束を破っての怪しいサイトへの入力）			11月
問題解決	道徳科②規則の尊重（他人の書いた絵の写真をネット上にアップする）			

図13 学習活動例・道徳科の指導案の実践

①学習活動例「2 捉え方の違い、発信内容のよしあしの理解」の実践

この活動では、「今日のえんそうやばかった。発表会に向けてもっとがんばれ」というメールをもらった場面について考えます。児童のワークシートの記入内容には、「このようなメールをもらったら、うまかったのか、悪かったのかこんわくする」とあります(図14)。情報通信ネットワークを利用した双方向のやり取りを行うときは、受け取る側の気持ちを思いやることを大事にして言葉を選ぶ必要性について考えています。


2 捉え方の違い、発信内容のよしあしの理解

あて先: ともちゃん
さし出し人: ゆいこ
けん名: がんばろう

今日のえんそう、やばかった。発表会に向けて、もっとがんばれ。

今日の活動をふり返って、考えたことを書いてみましょう。

幅校生などになったらスマホをばい思からいふらなことに与なける。自分がこついうメールをもらたらうまいの悪いの分らなてくれくすと思ます。 メールを受け取る側の気持ち



「やばかった」を上手だねと言ったほうがいいと思った。やばかっただと、自分がとても、下手だったのかな、と自信をなくしてしまう。

メールを送るときは、相手がこのメールを見たとき、どんな気持ちになるのか、よく考えてから送りたい。

図14 学習活動例の実践①

②学習活動例「6 情報に関する自分や他者の権利」の実践


この活動では、友達に気付かれないように写真を撮っている場面について考えます。児童のワークシートへの記入内容からは、相手の許可を取ることの必要性や自分が迷惑をかけるしまう可能性があることに気が付いていることが分かりました。また、自分が撮影される立場になった場合は被害者になることもある、ということにも気付いています(図15)。自分が加害者にも被害者にもなり得ることに気が付いたことで、今後の写真撮影の仕方について考えを深めています。

6 情報に関する自分や他者の権利

友達に気付かれないように、写真を撮っています。

写真を撮つていすときは 人の私かをもちてつえいしたりする。王聖由は写真をとつたほうか、いやがるかもしれないからです。これかもしつらんとて、あてに人をさつえいしたいようにしはす。

加害者にも、被害者にもなり得る



写真を撮られることが嫌な人もいます。写真は、しっかりと許可を取ってから。

相手に許可をもらってからじゃないとだめだし、SNSなどにあげると犯罪になるかもしれない。勝手に写真を撮らないことが大事だとわかった。

図15 学習活動例の実践②

③学習活動例「8 個人情報を共有することのリスク」の実践

この活動では、個人のIDとパスワードを他の人に教えてしまった場合について考えます。児童のワークシートへの記入内容からは、もしも、IDやパスワードを誰かに聞かれた場合は一人で抱え込んだり悩んだりせず、親や警察に相談することの大切さに気が付いていることが分かりました(図16)。また、盗撮やストーカー被害などの様々な事件に発展する可能性があることにも触れており、個人情報を発信しないことと、何かあった際には、すぐに親や警察に相談することの大切さを理解している姿が見られました。


8 個人情報を共有することのリスク

IDとパスワードを教えたらどうなる?

自分の情報を守るために気をつけることは?

いもないか、しこく来たら親に相談する。あけいと思たらその人は、ゲームやアプリのパスワードかひかえる。個人情報はせいにしはす。

・個人情報の大切さ
・自分で抱え込まず相談すること



怪しかったら、即、ブロックする。仲良くなりたいたけなら必要ないから、絶対に教えない。親や警察に相談をする。

IDやパスワードを教えたら、盗撮されるかもしれないし、家を知られるかもしれない。もし、ストーカーに顔と名前、住所が知られると事件になるかも。だから、IDやパスワード、個人情報を教えないようにする。

図16 学習活動例の実践③

(3) 情報モラルクイズ

情報モラルクイズは夏休みに基礎編を、秋休みに応用編を実施しました。クイズ実施後の保護者アンケートの感想には、「情報モラルについて親子で話し合う機会となった」「学校で学んだ内容や家庭のルールを再確認することができた」「学校で習っていない内容(学習活動例で実施していない内容)の知識も身に付けることができた」などの意見がありました。

4 指導プランの分析

(1) 指導プランを通した児童の変容

指導プランを通した児童の変容を見取るために、プラン実施前の6月と実施後の11月の2回、児童を対象にアンケート調査を行いました。

児童が情報端末を使うときに気を付けていることについて、6月は「危険な目にあわないようにする」「被害にあわないようにする」など、抽象的な回答が多く見られましたが、11月には、「相手を思って言葉に注意する」「名前や住所、ID、パスワードを他人に言わない」「依存症にならないように時間を守る」などの具体的な回答が増えました。指導プランを通して、知識が定着し、自分の判断で具体的に正しい行動を考えられるようになったことが分かります(図17)。

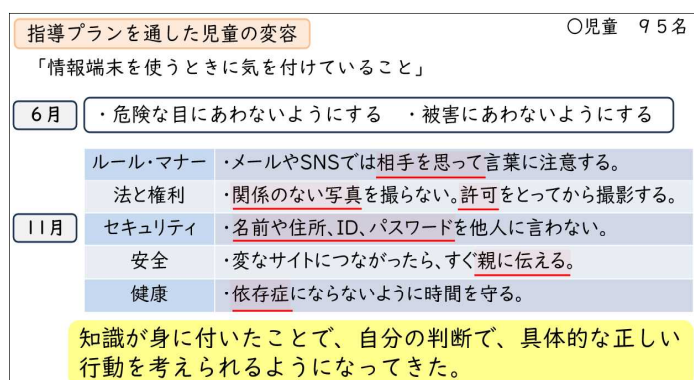


図17 指導プラン実施前後の児童の変容

(2) 指導プランを通した保護者の意識の変化

情報モラルクイズ実施後の保護者アンケート調査では、「情報モラルの知識を確認するよい機会になった」の回答の割合が基礎編では90%、応用編では100%でした(図18)。感想には「子どもより親の方が知らないことが多かった」「定期的にやってもらいたい」といった回答があり、保護者の知識を確かなものにしていくことや指導プランを継続してもらいたいと思っていることが分かりました。また、「子どもより親の知識の方が曖昧だった」「親子で話をしながら問題を解いた」という感想からは、親子で学ぶことを通して子どもの成長を実感している様子がうかがえました。

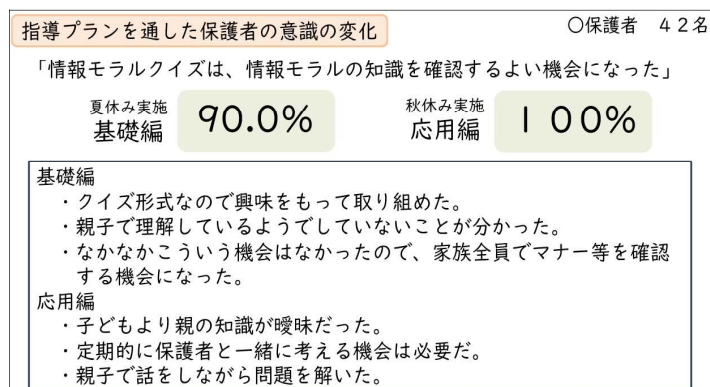


図18 情報モラルクイズに対する保護者の意見

指導プラン実践前後の保護者へのアンケートを比較したところ、項目「家庭で情報モラルに関する話をすることはある」では18.1ポイント増加しました（図19）。保護者の感想には「今後も子どもに分かりやすいように教えてほしい」等とあるように、指導プランを通して親子で一緒に学んだことで、保護者の情報モラルに対する関心が高まったことが分かりました。

項目「子どもと話し合ってルールを決めた」は12ポイント増加しており、項目「ルールを守っている」は14.8ポイント増加しました（図20）。保護者の感想には「使用時間が短くなり、約束を守るようになった」等とありました。

家族で話し合いながら、ルールやマナーなどを一緒に考えるようになり、児童が自分で考えて、よりよい行動をしようとしている変容に気が付いていることが分かりました。

項目「学校全体で情報モラル教育が十分に行われている」では、「よく取り組んでいる」が24.6ポイント増加しました（図21）。児童の変容が、保護者の学校への信頼につながり、学校と家庭で連携して取り組んだ成果が表れてきていると考えられます。

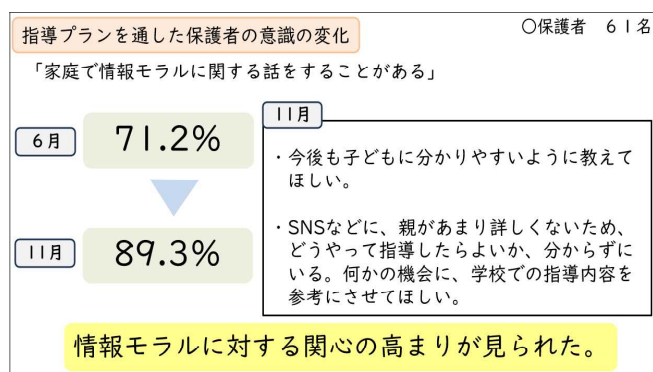


図19 指導プランを通した家庭内の意識の変化

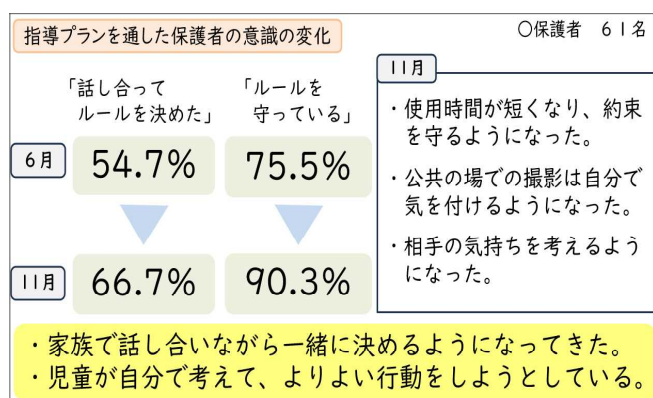


図20 指導プランを通した保護者の意識の変化

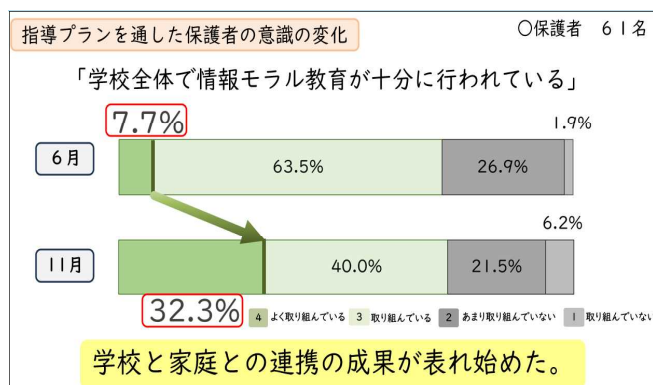


図21 指導プランを通した学校の情報モラル教育に対する満足度

(3) 協力校から見た指導プランの妥当性

① 小学校情報モラル教育系統表について

協力校から、これまでの年間指導計画上の情報教育に関する位置付けは、コンピュータの操作や知識などの技能面に関することが多く、情報モラルに関しても古い内容のものが多かったため、今回の系統表を参考に自校の年間計画等の見直しを図りたいという意見がありました。また、情報モラルに関するトラブルも低年齢化しており、中学年を対象とした情報モラル教育をしっかりと行うことで、今後のトラブルを回避できるので

はないか、という意見もありました。一方、道徳科や学級活動、総合的な学習の時間等の活用が考えられるが、どのように年間計画上に位置付ければよいのか分からず不安だという意見もありました。情報モラルに関する内容についての系統表は、学校にとって必要感のあるものであることが分かりました。

②学習活動例について

授業者からは、「情報モラルは児童の個人差が大きいですが、今のうちに身に付けさせたい内容だったので準備していただいてよかった」「児童の実態やニーズに合ったものを担任が選択して使うことができるので、とても有効である」「教師の発話例と提示教材、ワークシート等があったので取り組みやすく、ありがたかった」といった意見がありました。他にも、「他校と交流する校外学習の事前学習など、短学活以外での活用も考えられ、いろいろな場面で活用できる」などの意見もありました。一方、「みんなが同じように経験していない内容もあるので、ある程度、説明が必要な部分もあった」という意見もありました（図22）。

授業を参観した管理職からは「実際に提示されているシートの中で起こったことのほとんどが家庭での出来事なので、家庭との協力がとても大事になってくる」「学校で身に付けた知識が家庭で生かされていると感じる」といった意見がありました。

改善点として、「イラストが児童のイメージに合わないものがあり、その場面の状況を理解することに困ることがあった」という意見がありました（図23）。

③道徳科の指導案について

道徳科の授業では、「少しだけという気の緩みから、大きな事件に発展してしまう危険性について、よく考えていた」「安易に危険なサイトは開かない、気になることは家の人に声を掛けて一緒に調べるなどの気付きがみられた」「学習指導例や情報モラルクイズで身に付いた知識を生かした発言が見られた」などの意見がありました。学習活動例や情報モラルクイズの内容との関連を図った指導案であったため、それらの学びをつなげる役割を果たすことができたと考えられます。

④情報モラルクイズについて

管理職から「情報モラルクイズに取り組むことにより、保護者と児童が知識を共有することができる」「学校と保護者の価値観が違う場合、児童が迷ってしまうことが考えられるが、このような教育活動に取り組むことで、学校と保護者が同じ方向を向いて児童に接することができるのではないか」という意見がありました。学校と家庭が共通理解を図りながら、情報モラル教育を進める手段として有効であると考えられます。

⑤児童の変容について

授業者からは、「学習活動例の学習を積み重ねるたびに、前回の学習に似ている、前もこの言葉がでてきた、などのつづやきや発表があり、知識が蓄積された実感がある」「このような学習活動例をやっていなければ、ネットで知り合った人と会ってもいいのではないかと答える児童がいると思うが、今回の学習活動を終えた後は、学級の児童全員が、顔の見えない相手はどのような人なのか分からないので会わない、と答えていたため、個人情報に関する意識の高まりが感じられた」といった意見がありました（図23）。

⑥組織的な取組について

指導プランのデータを学校内の共有サーバに入れ全職員が活用できるようにしたり、

学年部で声を掛け合い、進度をそろえたりする取組がありました。また、職員会議や校長通信などを通じた活用の推進もありました。さらに、学級便りに情報モラル教育に関するアンケートや指導プランの実践紹介を掲載したことで、家庭への周知が図られました。

教頭からは、「児童は、保護者がスマートフォン等を使っている姿をよく見て生活してきているといった現状を考えると、これからは全学年で情報モラル教育を進めていく必要がある。また、児童と保護者が一緒に学んでいく機会は、今まで以上に必要だと考えられ、今回の取組はよいと思った」という意見をいただきました。



図22 教師が指導する様子



図23 児童が発表する様子

Ⅲ 研究のまとめ

1 本研究の成果と課題

(1) 本研究の成果

一つ目に、系統表に基づいた学習活動例は教師の支援と指導の充実につながったことが挙げられます。

二つ目に、指導プランによる学習を積み重ねたことによって、正しく判断するための知識や、自らよりよく行動しようとする意欲と態度を育むことができたことが挙げられます。このような児童の変容が、保護者の学校教育への信頼を高めることにつながり、学校と家庭との連携が図られ始めたと考えます(図24)。

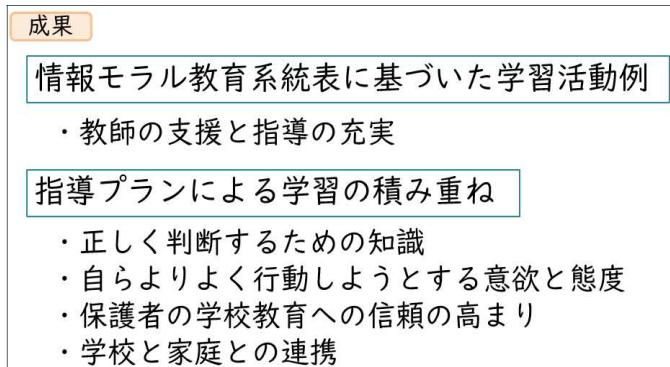


図24 指導プランの成果

(2) 本研究の課題

内容とイラストが合っていないため、児童が具体的な状況のイメージができないワークシートや、実際にトラブルになった場合の対応の記載がない学習活動例があったことが挙げられます。また、年間計画への位置付けが具体的ではなく、組織的・継続的な取組という点では十分ではありませんでした。

今後の指導プランの改善として、一つ目は、ワークシートの修正を行い、学習活動例にトラブルが起きた場合の対応を記載します。二つ目は、指導プランについて年間計画への位置付けの例を示し、どの学校でも取り入れやすいよう支援します。三つ目は当センターウェブサイトや研修講座等を通じて、指導プランの活用を薦めていきたいと考えています(図25)。

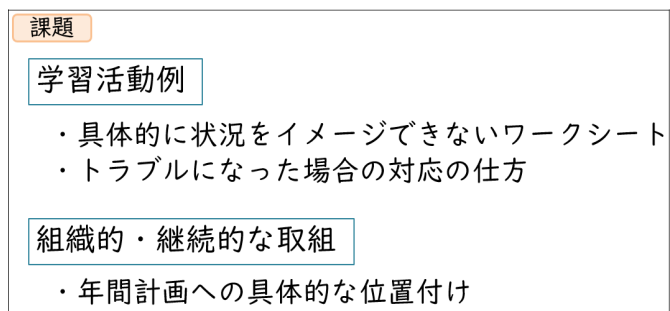


図25 指導プランの課題

小学校情報モラル教育系統表

	低学年	中学年	高学年
指導項目	<ul style="list-style-type: none"> ○人の作ったものを大切にし他者に情報を伝ええない ○決められた利用の約束を守る ○情報や情報技術を適切に利用する 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分や他者の情報を大切に ○健康のために利用の約束を守る ○情報通信ネットワークを協力して利用する 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報にも自他の権利があることを踏まえ、尊重する ○自他の安全や健康への影響を踏まえ、情報メディアを利用する ○情報通信ネットワークは共用のものであるという意識をもって行動する
ルール・マナー	<ul style="list-style-type: none"> ○インターネットを安全に利用する方法の理解 ・インターネットでできること、適切なサイトとはにか ・大人に助けを求めする方法 ○情報の発信や情報をやりとりする場の場合の責任 ・様々な人がつながっていることとの理解 ・信頼できる大人の許可を得てやりとりをする 	<ul style="list-style-type: none"> ○通信ネットワーク上のルールやマナー ・ネットいじめに遭遇したときの対処方法 ・垢ネットの悪い、発信内容の良しあしの理解 ○発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響 ・情報を共有することとの理解 ・インターネット上での他者との関わり方の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会は互いにルールと法律を守ることによって成り立っていること ・インターネット上にある情報の信ぴょう性（信頼できるニュースとフェイクニュース） ・ネットいじめ（発生する理由と受けた場合の対応方法） ○情報社会における自分の責任や義務 ・ソーシャルメディアの使い方（先入観、客観的な視点） ・インターネット上での他者との関わり方の理解と実践
法と権利	<ul style="list-style-type: none"> ○人の作った物を大切にすることや他者に伝えてはいけない情報があることを知る ・個人情報の大切さ（自分の情報、他人の情報） ・個人情報を非公開にすることの意味 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報に関する自分や他者の権利 ・撮影や描写を拒む権利 ・著作権 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報に関する個人の権利とその重要性 ・知的財産権（著作権を含む）
セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> ○情報端末を利用するときの基本的なルール ○生活の中で必要となる基本的な情報セキュリティ ・アカウント、パスワードの目的 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報を守るための方法 ・強力なパスワードの重要性 ・個人情報共有することのリスク 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報セキュリティの確保のための対策・対応 ・個人情報取得するウェブサイトやアプリの存在 ・フィッシングについて ○仮想的な空間の保護・治安維持のための、サイバーセキュリティの重要性
安全	<ul style="list-style-type: none"> ○自分や他人の安全について 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報メディアの選択とそのバランス ・情報メディアの利便性と危険性の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ○安全面に配慮した、情報メディアとの関わり方 ・情報メディアの利用に対する行動について（ゲームメディア、課金、なりすまし被害等）
健康	<ul style="list-style-type: none"> ○自分や他人の健康について 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報メディアの利用による健康への影響 ・自分自身や他人に及ぼす心身の影響の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ○健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方 ・自分のメディアバランス（何を選び、いつ使うか、どのくらい使うか等）の振り返り
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ○相手を意識し、分かりやすく伝える ○表現方法を相手に合わせて選択する 	<ul style="list-style-type: none"> ○一つの事象について立場を変えて多面的に見ることができ ○表現方法を相手に合わせて選択し、相手や目的に応じて、自他の情報を組み合わせて適切に表現する 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的や意図、伝える相手に応じて構成しながら説明し、自分の考えを適切に伝えることができる ○情報通信ネットワークの公共性を意識して行動しようとする
問題解決	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決における情報の大切さを意識しながら情報活用を振り返り、できるようになったことに気付くことができる ○自分の情報活用を振り返り、どのように改善していけばよいかを考えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報及び情報技術の活用を振り返り、どのように改善していけばよいかを考えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決過程を見直し、新たな問いを生むことができる

学習活動例
「1 ネットいじめに遭遇したときの対処方法」

指導項目の分類	ネットいじめに遭遇したときの対処方法
対象	小学校（中学年）
ねらい	ネットいじめのこわさを知り、もしもネットいじめにあったら（見かけたら）、一人で悩まずに信頼できる大人に相談すればよいことに気付くことができる。
用語の解説	ネット上のいじめとは、携帯電話やパソコンを通じて、SNSの掲示板やチャットなどに、特定の子どもの悪口や誹謗・中傷を書き込んだり、メールを送ったり、グループから外したりするなどの方法により、いじめを行うもの。
活動例	教師の主な支援
時間	学習活動
2分	ワークシートを読み、問題場面をつかむ。 ネットいじめの「こわさ」とは何だろう
6分	問題場面について考える。 目の前の相手に直接話さない分、軽い気持ちで書き込んでいく。 友達から友達へとどんだん広がっていく。 相手の表情が見えないから、どんな気持ちでいるか想像しにくい。
3分	教師の話聞く。 ネットいじめの特徴を確認し、ネットいじめのこわさや、一人で抱え込まないことが大切であることを気付くように説明する。
4分	今日の活動を振り返って、考えたことをワークシートに記入する。 自分の悪口を書かれたり、友達の見かけたりしたら、すぐに周りの大人に相談する。 誰かが書いているからといって、自分口は書き込まない。

学習活動例（発話例）
「1 ネットいじめに遭遇したときの対処方法」

ねらい	ネットいじめのこわさを知り、もしもネットいじめにあったら（見かけたら）、一人で悩まずに信頼できる大人に相談すればよいことに気付くことができる。
活動例	教師の主な支援
時間	学習活動
2分	ワークシートを読み、問題場面をつかむ。 みんなのこわさ、よく分からないうけれどという台詞が気になる。
6分	問題場面について考える。 目の前の相手に直接話さない分、軽い気持ちで書き込んでいく。 友達から友達へとどんだん広がっていく。 相手の表情が見えないから、どんな気持ちでいるか想像しにくい。
3分	教師の話聞く。 ネットいじめの特徴を確認し、ネットいじめのこわさや、一人で抱え込まないことが大切であることを気付くように説明する。
4分	今日の活動を振り返って、考えたことをワークシートに記入する。 自分の悪口を書かれたり、友達の見かけたりしたら、すぐに周りの大人に相談する。 誰かが書いているからといって、自分口は書き込まない。

ねらい： ネットいじめのこわさを知り、もしもネットいじめにあったら（見かけたら）、一人で悩まずに信頼できる大人に相談すればよいことに気付くことができる。

教師の発話例	教師の主な支援	学習活動
「ワークシートを読んで、気になるところはありますか。」 「これはネットいじめの例です。こわいと感じた人もいるのではないですか。今日は、ネットいじめについて考えてみましょう。」 ネットいじめの「こわさ」って何だろう？ 「まず、自分で考えてみましょう。」 「考えたことを発表してください。」	「ネットいじめ」の状況について、ワークシートを用いて確認する。 ・1分程度、自分で考える時間を設定する。 ・児童の発言から、ネットいじめの特徴に当てはまる内容をキーワードで板書し、児童が考えを整理できるようにする。（いじめている実感、どんだん広がる、など）	ワークシートを読み、問題場面をつかむ。 みんなのこわさ、よく分からないうけれどという台詞が気になる。 問題場面について考える。 目の前の相手に直接話さない分、軽い気持ちで書き込んでいく。 友達から友達へとどんだん広がっていく。 相手の表情が見えないから、どんな気持ちでいるか想像しにくい。
「ネットいじめがなぜこわいのか、ネットいじめの特徴を確認しましょう。」 「ネット上の出来事で、目の前にその人がいないため、いじめている実感がもてません。」 「実感がないので、悪口の内容や書き込みの回数など次第に攻撃がエスカレートします。」 「学校にいる間に限らず、家に帰っても書き込みによる攻撃が続きます。」 「直接関係のない友達も、興味本位で攻撃してくる場合があります。」 「一度ネット上に書き込んだ情報（記録）は、いつまでも残ってしまい、消すことができません。」 「自分だけで解決することが難しいので、決して一人で抱え込まないようにしましょう。」 「また、画面を撮影するなどして残しておき、大人に相談することも有効です。」	ネットいじめの特徴を確認し、ネットいじめのこわさや、一人で抱え込まないことが大切であることを説明する。 ネットいじめの特徴を確認し、ネットいじめのこわさや、一人で抱え込まないことが大切であることを説明する。 ネットいじめの特徴を確認し、ネットいじめのこわさや、一人で抱え込まないことが大切であることを説明する。 ネットいじめの特徴を確認し、ネットいじめのこわさや、一人で抱え込まないことが大切であることを説明する。	今日の活動を振り返って、考えたことをワークシートに記入する。 自分の悪口を書かれたり、友達の見かけたりしたら、すぐに周りの大人に相談する。 誰かが書いているからといって、自分口は書き込まない。

学習活動例（発話例） 「2 捉え方の違い、発信内容のよしあしの理解」

ねらい：人とよりよく関わるために、受け取る相手の気持ちを考えて、情報を発信しようとするところができる。		教師の発話例	
活動例	教師の主な支援	教師の発話例	
時間	学習活動	教師の発話例	
1分	問題場面を確認する。	「ワークシートを読んでみましょう。」 「ゆいさんは発表会の前に、とみさんの演奏がとてもよかったです。伝えたくて、メールを送ったようですよ。」 「このメールをもらったら、あなたはどう思いますか？」 「まず、自分で考えてみましょう。」	
6分	個で考え、意見を発表する。 ・悲しい自分の演奏がそんなひどかったのかと思う。 ・つらい自分でも分かっているのに、友達にはつきりと言われてしまった。 ・腹が立つ怒る。精一杯演奏したのに、その感想はひどい。	「メールを受け取った時の気持ちと、なぜそう思ったのか発表しましょう。」 「ゆいさんは発表会に向けて、とみさんを励ますつもりで、伝わりなかつたようです。」 ※教師が次のように二通り、読んでみてよい。 ○感情を込めないで読む。 ○感情を込めて読む。 「メールは、好きな時間に送ることができ、相手も好きな時間に読むことができます。」 「直接話すときや声で思いを伝えることは、メール文は思いを伝えることができません。」 「発信する側の思いと受け取る側の思いが違えば、トラブルが起きる危険があります。」 「人とよりよく関わるためには、メールを送る前に、受け取る相手かどうかを大切に考えましょう。」 「今日の活動を振り返って、考えたことをワークシートに書いてみましょう。」 「○○さんが考えたことを発表してください。」 ※価値観の違いを、自分の気持ちに伝わるように、自分の言葉で伝えてみましょう。	
3分	教師の話聞く。	「メールを使用することのよさを伝える際に、相手の気持ちを押し付ける必要はないように気づくように説明する。」	
5分	今日の活動を振り返って考えたことを、ワークシートの記入する。 ・メールの使い方を、相手の思いが分かった。いいことを送るときは、受け取る相手か、メール文を認めてから送りたい。	「今日の学習活動で学んだことを、ワークシートに記入するようにつけていきたいと思います。児童一人一人の自覚につなげるように、意識付けを行います。学んだ内容を家族と話をしてみよう。」	

学習活動例 「2 捉え方の違い、発信内容のよしあしの理解」

ルール・マナー	
指導項目の分類	捉え方の違い、発信内容のよしあしの理解
対象	小学校（中学年）
ねらい	人とよりよく関わるために、受け取る相手の気持ちを考えて、情報を発信しようとするところができる。
活動例	教師の主な支援
時間	学習活動・予想される児童の反応
1分	問題場面を確認する。 このメールをもらったら、あなたはどう思いますか？
6分	個で考え、意見を発表する。 ・悲しい自分の演奏がそんなひどかったのかと思う。 ・つらい自分でも分かっているのに、友達にはつきりと言われてしまった。 ・腹が立つ怒る。精一杯演奏したのに、その感想はひどい。 ・メールを使用することのよさを押さえた上で、発信する際は、受け取る相手の気持ちを考える必要があることに気付くように説明する。
3分	教師の話聞く。
[説明の例]	
①メールは、好きな時間に送ることができ、相手も好きな時間に読むことができる。②直接話すときや声で思いを伝えることは、メール文は思いを伝えることができません。③発信する側の思いと受け取る側の思いが違えば、トラブルが起きる危険があります。④人とよりよく関わるためには、メールを送る前に、受け取る相手か、メール文を認めてから送りたい。⑤ワークシートに記入する。	
5分	今日の活動を振り返って考えたことを、ワークシートの記入する。 ・メールの使い方を、相手の思いが分かった。いいことを送るときは、受け取る相手か、メール文を認めてから送りたい。 ・今日の学習活動で学んだことを、ワークシートに記入するようにつけていきたいと思います。児童一人一人の自覚につなげるように、意識付けを行います。学んだ内容を家族と話をしてみよう。」

学習活動例 (発話例)
「3 情報を共有することの理解」

ルール・マナー	
指導項目の分類	情報を共有することの理解
対象	小学校 (中学年)
ねらい	自分や他者の情報の大切さを踏まえ、情報機器端末を使って他の人と情報を共有するときの注意点に気付くことができる。
活動例	教師の主な支援
時間	学習活動・予想される児童の反応
3分	<p>問題場面をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな情報(意見)を共有する方法の一つに情報共有ツールがあることを確認する。 提示教材の会話をカプラーで示して、イメージしやすくする。
5分	<p>ほかの人の意見を勝手に書きかえてもいいのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> 付箋機能を使って情報共有する場面の問題点について考えよう。 <ul style="list-style-type: none"> 1分程度、自分で考える時間を設定する。 全体で考えを共有する。 自分の考えだけで、他の人の意見を勝手に書きかえてはいけない。 他の人の意見に何か言いたいときは直接伝える。 変な意見だったら、書き換えても仕方ない。
3分	<p>教師の話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報機器端末を使って情報を共有するときの注意点に気付くように説明する。
4分	<p>今日の活動を振り返って考えたことを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の人の意見は、勝手に書き換えてはいけない。 自分の意見に對する自分の考えは、直接伝えるようにする。

※特別の教科 道徳の内容項目との関連「相互理解・寛容」(自分の考えと異なる考えがあっても認められる。)

学習活動例 (発話例)
「3 情報を共有することの理解」

ねらい: 自分や他者の情報の大切さを踏まえ、情報機器端末を使って他の人と情報を共有するときの注意点に気付くことができる。	
活動例	教師の発話例
時間	学習活動
3分	<p>問題場面をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろな情報(意見)を共有する方法の一つに情報共有ツールがあることを確認する。 提示教材の会話をカプラーで示して、イメージしやすくする。
5分	<p>ほかの人の意見を勝手に書きかえてもいいのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> 付箋機能を使って情報共有する場面の問題点について考えよう。 <ul style="list-style-type: none"> 1分程度、自分で考える時間を設定する。 全体で考えを共有する。 自分の考えだけで、他の人の意見を勝手に書きかえてはいけない。 他の人の意見に何か言いたいときは直接伝える。 変な意見だったら、書き換えても仕方ない。
3分	<p>教師の話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報機器端末を使って情報を共有するときの注意点に気付くように説明する。
4分	<p>今日の活動を振り返って考えたことを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の人の意見は、勝手に書き換えてはいけない。 自分の意見に對する自分の考えは、直接伝えるようにする。

※特別の教科 道徳の内容項目との関連「相互理解・寛容」(自分の考えと異なる考えがあっても認められる。)

学習活動例（発話例）
「4 インターネット上での他者との関わり方の理解」

ねらい：ネットでの出会いに潜む危険を理解し、ネットでも知り合った友達との接し方を考えることができる。

活動例 時間	学習活動	教師の主な支援	教師の発話例
2分	ワークシートを読み、場面を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 気になった部分があればマークするよう伝える。 	「ワークシートを見てください。」「みさきさんは、ネットでも知り合った友達と会うやくそくをしました。」「みなさんが、みさきさんと同じ立場だったら、ネットでも知り合った友達と会いますか？会いませうか？」
6分	<p>自分の意見とその理由を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 危なかったら逃げればいいのか、会ってみたいと思わないか。 何回もメールのやりとりをしていて安心だから、会っても大丈夫だと思わないか。 SNSでコメントするのはいいと思うけれど、会った時は怖いから、私だけ絶対会わない。 ゲームの中で協力するのはいいと思うけれど、実際に会うのは無理だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習シートに、自分の考えを記入するよう伝える。 理由も考えるように伝える。 理由を明らかにして発表するよう促す。 	「おう』『会わない』『どちらからか』を付けて、なぜそう考えたのか、理由を書きましょう。」「どんな意見も言ってみよう。」「」
3分	教師の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ネットでの出会いに潜む危険に気付くことができるように説明する。 	「やりとりを重ねていくうちに、つながり強くなり、会ったことになりに、勘違いしてしまいます。ネットでも知り合った相手は、性別など、簡単にうそをつくことができず、住所を教えたり、顔写真を交換したりする個人情報を教えることは、『ネット』という危険が、いつまでも消えませんが、『自分だけは大丈夫』という気持ちは、友達と一緒なら大丈夫です。」「」
4分	<p>今日の活動を振り返り、「ネットでも知り合った友達」との接し方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の情報を簡単に信用しない。 ネットでも知り合った友達と直接会わない。 	<ul style="list-style-type: none"> ネット上での他者との関わり方について、自分から自分が気をつけたいことを考えるよう促す。 画面を撮影するなどは、やりとりを撮影するは保存できないことを説明する。 今日学んだことについて、家族と話をしてみるよう促す。 	「ネットでも知り合った友達と直接会うことは、画面を撮影して保存しておき、大人に相談してください。」「」

学習活動例
「4 インターネット上での他者との関わり方の理解」

ルール・マナー

指導項目の分類	インターネット上での他者との関わり方の理解
対象	小学校（中学年）
ねらい	ネットでの出会いに潜む危険を理解し、ネットでも知り合った友達との接し方を考えることができる。
活動例 時間	教師の主な支援
2分	<p>ワークシートを読み、場面を確認する。</p> <p>ネットでも知り合った友達と会う？会わない？</p>
6分	<p>自分の意見とその理由を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 危なかったら逃げればいいのか、会ってみたいと思わないか。 何回もメールのやりとりをしていて安心だから、会っても大丈夫だと思わないか。 SNSでコメントするのはいいと思うけれど、会った時は怖いから、私だけ絶対会わない。 ゲームの中で協力するのはいいと思うけれど、実際に会うのは無理だと思う。
3分	<p>教師の話を聞く。</p> <p>ネットでの出会いに潜む危険に気付くことができるように説明する。</p>
4分	<p>今日の活動を振り返り、「ネットでも知り合った友達」との接し方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の情報を簡単に信用しない。 ネットでも知り合った友達と直接会わない。

学習活動例（発話例）
「5 著作権」

ねらい：著作権について知り、著作権を守ることの大切さに気付くことができる。		
活動例	学習活動	教師の発話例
時間	教師の主な支援	
2分	ワークシートの会話を読み、場面を確認する。	「ワークシートの会話を読んでみましょう。」 「太郎さんは、花子さんが書いた絵を勝手にSNSにあげてしまいました。」
6分	問題場面について考える。 ・花子さんが「SNSにあげてもいいよ」と言っていないのに、勝手にあげるのは、だめだと思おう。 ・太郎さんは、花子さんの絵を勝手にSNSにあげていて、友達に話していいと思おう。	友だちがかいた絵を、勝手にSNSにあげてもいいのですか。 「最初に、自分で考えてみましょう。」 「考えたことを周りの人と話し合ってみよう。話し合う時には、どうしてそう思うのか、理由もつけて説明してみましょう。」
2分	3 教師の話聞く。	「絵や文章をかくことによつて、わたくしたちは著作権という権利を持っています。」 「著作権によつて、自分や他の人が作ったものが勝手に使われたり、自分の知らないうちに公開されたりしないようになっていきます。」 「著作権は、プロの作家や絵かきだけの権利です。」 「絵や文章をかくことを仕事にしている人にとつては、この権利は特に大切なものであり、しっかりと守られなければいけません。」
5分	4 今日、活動を振り返って考えたことを、ワークシートに記入する。 ・他の人が作ったものを勝手に使ったり、公開したりしない。	「普段から著作権を守り、自分や他の人が作ったものを大切にしていきたいように。」 「それでは、今日の学習を振り返りに書いてみましょう。」 「今日、学んだことを家族と一緒に話をしてみてください。」

学習活動例
「5 著作権」

法と権利

指導項目の分類	著作権
対象	小学校（中学年）
ねらい	著作権について知り、著作権を守ることの大切さに気付くことができる。
用語の解説	著作権とは、絵や文章、音楽、写真などの作品（著作物）を作った人（著作者）が持つ権利。全ての著作物は、著作権法で保護されているため、著作者の許可を得ずに、他の人が勝手に利用・加工したり、公開することはできない。
活動例	学習活動・予想される児童の反応
時間	教師の主な支援
2分	ワークシートの会話を読み、場面を確認する。 太郎さんが、花子さんの知らないうちに、勝手にSNSに花子さんの絵を公開してしまっただけを確認する。
6分	友だちがかいた絵を、勝手にSNSにあげてもいいのかな？ 問題場面について考える。 ・花子さんが「SNSにあげてもいいよ」と言っていないのに、勝手にあげるのは、だめだと思おう。 ・太郎さんは、花子さんの絵を勝手にSNSにあげていて、友達に話していいと思おう。
2分	3 教師の話聞く。 「絵や文章をかくことによつて、わたくしたちは著作権という権利を持っています。」 「著作権によつて、自分や他の人が作ったものが勝手に使われたり、自分の知らないうちに公開されたりしないようになっていきます。」 「著作権は、プロの作家や絵かきだけの権利です。」 「絵や文章をかくことを仕事にしている人にとつては、この権利は特に大切なものであり、しっかりと守られなければいけません。」 「みんなが見るマンガやアニメ、テレビなどの映像にも著作権があるので、勝手に使ったり、SNSにあげたりすることはできません。友だちが作ったものであっても同じです。」 「普段から著作権を守り、自分や他の人が作ったものを大切にしていきたいように。」
5分	4 今日、活動を振り返って考えたことをワークシートに記入する。 ・他の人が作ったものを勝手に使ったり、公開したりしない。 「著作権を守るために、気を付けていきたいように。」 「学んだ内容を家族と話し合ってみよう。」

※この学習の後に、道徳科の授業展開例「まきまりを守ることの意義やよさ」の学習につなげることが可能です。

学習活動例（発話例）
「6 撮影や描写を拒む権利」

ねらい：情報に関する自分や他者の権利について理解した上で、情報手段を適切に用いることができる。

時間	学習活動	教師の主な支援	教師の発話例
2分	ワークシートを読み、問題場面をつかむ。	・友達の写真を撮ってもよいか考えられるように、その場面を表す絵を提示し説明する。	「ワークシートを読んで、気になるところはありますか。」 「クラスの友だちに気付かれないうように、カメラで写真を撮っています。」
6分	問題場面について考える。 ・写真を撮ってもいいと思う。 ・友達に気付かれないう写真撮ってほめだと思ふ。 ・撮られることが嫌な友達もいると思うのだ。	・1分程度、自分で考える時間を設定する。 ・考えた理由を明らかにして発表するように促す。	友だちの写真をとってもいいのかな？ 「まず、自分で考えてみましょう。」 「考えたことを発表してください。」
2分	3 教師の話聞く。	・他人を撮影するときに許可を取る理由に気が付くことができるように説明する。	「写真を撮られても気にならない人もいれば、嫌いな人もいますね。」 「相手の許可なく勝手に写真を撮ってはいけないと決められたルールがあります。」 「仲のよい友達であっても、理由を伝え、許可を取ることが必要です。」 「写真を撮るときは、相手に写真を撮ってもよいか、許可をとってから撮るよようにしましょう。」
5分	4 今日活動を振り返って、考えたことをワークシートに記入する。 ・相手に写真の用途を伝える。その後、相手に写真を撮ってもよいかどうか、許可をとってから撮影する。	・友達の写真を撮影するときに気を付けることを記入するように促す。 ・今日学んだ内容について、家族と話をしてみるように促す。	「今日の学習を振り返りましょう。写真を撮影するときは、どのようにすればよいか、考えを書きましょう。」 「〇〇さん、振り返りを発表してください。」 「これからは、写真を撮影するときは、相手に理由を伝え、許可をとってからしましょう。」 「今日学んだ内容について、家族と話をしてみてください。」

学習活動例
「6 撮影や描写を拒む権利」

法と権利

指導項目の分類	撮影や描写を拒む権利	
対象	小学校（中学年）	
ねらい	情報に関する自分や他者の権利について理解した上で、情報手段を適切に用いることができる。 ・撮影や描写を拒む権利（肖像権）	
用語の解説	肖像権（しょうぞうけん） 自分の顔や姿を無断で写真・絵画などに写しとられたり、それを無断で公表されたりすることを拒否する権利。	
活動例	教師の主な支援	
時間	学習活動・予想される児童の反応	
2分	1 ワークシートを読み、問題場面をつかむ。 友だちの写真をとってもいいのかな？	・友達の写真を撮ってもよいか考えられるように、その場面を表す絵を提示し説明する。
6分	2 問題場面について考える。 ・写真を撮ってもいいと思う。 ・友達に気付かれないう写真撮ってほめだと思ふ。 ・撮られることが嫌な友達もいると思うのだ。	・1分程度、自分で考える時間を設定する。 ・考えた理由を明らかにして発表するように促す。
2分	3 教師の話聞く。	・他人を撮影するときに許可を取る理由に気が付くことができるように説明する。
	[説明の例]	
	①写真を撮られることが、嫌いな人もいます。 ②勝手に写真を撮ってはいけないと決められたルール違反になってしまいます。 ③許可をとらないで、写真を撮るとルール違反になります。 ④写真を撮るときは、相手に写真を撮ってもよいか、許可をとってから撮るよようにしましょう。	
5分	4 今日活動を振り返って、考えたことをワークシートに記入する。その後、相手に写真を撮ってもよいかどうか、許可をとってから撮影する。	・友達の写真を撮影するときに気を付けることを記入するように促す。 ・今日学んだ内容について、家族と話をしてみるように促す。

学習活動例（発話例）
「7 強力なパスワードの重要性」

時間	学習活動	教師の主な支援	教師の発話例
2分	1 問題場面をつかむ。 ・簡単なパスワードだな。 ・誕生日を知られている。	・簡単なパスワードを解読、悪用され複数の被害に遭ったことをワークシートを用いて確認する。	「みなさん、ワークシートの文章を読みましよう。」 「自分しか知らないパスワードに設定したつもりですが、他の人に知られてしまいました。」 [ひ害にあわないためにはどうすればよいでしょうか。]
5分	2 問題場面を考える。 ・誕生日はすぐに他人に知られてしまうので、他の人が簡単に分からないものにするべき。 ・数字以外も使うといいかもしれない。	・1分程度、自分で考える時間を設定する。 ・考えた理由を添えて発言するように促す。	「まず、自分で考えてみましょう。」 「考えた理由を添えて発表してください。」 ※様々な意見を、遠慮なく言えるような雰囲気を作りたい。
5分	3 教師の話聞く。		「被害に遭わないためには、ゲームサイトなどに簡単に登録しないことが大切です。」 「でも、インターネットで必要なサービスを受けるためには登録する必要があります。パスワードが必要になってきます。」 「必要なサービスとは、例えば、SNSへの登録や、キャッシュカードでの買物などです。」 「分かります。パスワードは、12345・ABCDなど順番になっているもの、自分の名前などです。」 「他の人に分かりにくいパスワードは、 ・順番がバラバラな文字と数字を混ぜる。 ・8字以上にする。 ・好きな言葉・思い出などを使って作ったパスワードです。」 「先生が例を一つ作ってみます。」 (例) 秋田すき → AKITASUKI → AKITAUk! 「このような工夫で他の人には分かりにくいパスワードにできます。」 「もし、パスワードが他の人に知られてしまった場合、すぐ変更する必要があります。」
3分	4 今日の活動を振り返って考えたことをワークシートに記入する。 ・簡単なパスワードは他の人に知られ悪用されるかもしれない。 ・パスワードを工夫することが大切だ。	・パスワードの必要性と作成するときに気を付けることなどを記入するように説明する。 ・今日学んだ内容について、家族と話をしてみるように促す。	「なぜ、簡単なパスワードではいけないのか分かったか。それではワークシートに気が付いたことを記入しよう。」 「今日学んだ内容について、家族で話をしてみてください。」

ねらい：パスワードを他の人には分かりにくいものにする必要性について考えることができる。

学習活動例
「7 強力なパスワードの重要性」

指導項目の分類	強力なパスワードの重要性
対象	小学校（中学年）
ねらい	パスワードを他の人には分かりにくいものにする必要性について考えることができる。
活動例	教師の主な支援
時間	
2分	1 問題場面をつかむ。 ・簡単なパスワードだな。 ・誕生日を知られている。 [ひ害にあわないためにはどうすればよいでしょうか。]
5分	2 問題場面を考える。 ・誕生日はすぐに他人に知られてしまうので、他の人が簡単に分からないものにするべき。 ・数字以外も使うといいかもしれない。 ・1分程度、自分で考える時間を設定する。 ・考えた理由を添えて発言するように促す。
5分	3 教師の話聞く。 ・例を黒板に記入する。 [説明の例] ① 「被害に遭わないためには、ゲームサイトなどにかんたんに登録しないことが大切です。」 ② 「でも、インターネットで必要なサービスを受けるためには登録する必要があります。パスワードを考えるといいかもしれません。」 ③ 「必要なサービスとは、例えば、SNSへの登録や、キャッシュカードでの買物などです。」 「分かります。パスワードは、12345・ABCDなど順番になっているものや自分の名前などです。」 「分かりにくいパスワードは、 ・順番がバラバラな文字と数字を混ぜる。 ・8字以上にする。 ・好きな言葉・思い出などを使って作ったパスワードです。」 「先生が例を一つ作ってみます。」 (例) 秋田すき → AKITASUKI → AKITAUk! 「このような工夫で他の人には分かりにくいパスワードにできます。」 「もしも、パスワードが他の人に知られてしまった場合、すぐ変更する必要があります。」
3分	4 今日の活動を振り返って、考えたことをワークシートに記入する。 ・簡単なパスワードは他の人に知られ悪用されるかもしれない。 ・パスワードを工夫することが大切だ。

学習活動例（発話例）
「8 個人情報共有することのリスク」

セキユリテイ	
指導項目の分類	個人情報共有することのリスク
対象	小学校（中学年）
ねらい	自分の情報や他人の情報の大切さを踏まえ、個人情報を守る必要性に気付くことができる。
用語の解説	個人情報（こじんじょうほう）とは、個人に関する情報のうち、氏名や生年月日など特定の個人を識別することができることのできる情報を指す。その他にも、住所や電話番号、メールアドレス、IDやパスワードなど大切な情報もある。
活動例	教師の主な支援
1分	<p>会話文を読む。</p> <p>IDとパスワードを教えた花子さんの行動を、あなたはどのように思いますか。</p>
6分	<p>個で考え、意見を発表する。</p> <p>ゲームでもIDとパスワードは教えてはいけないと思う。</p> <p>知らない人なのに、本当の名前を教えてはいけないと思う。</p> <p>知らない人に顔を知られると怖いので、写真を送ってはいけないと思う。</p>
3分	<p>教師の話聞く。</p> <p>個人情報を守る必要性に気付くように説明する。</p>
5分	<p>今日の活動を振り返り、考えたことをワークシートに記入する。</p> <p>インターネット上で知らない人とゲームを通して仲よくなることも、個人情報は教えないようにする。</p>

学習活動例（発話例）
「8 個人情報共有することのリスク」

ねらい：自分の情報や他人の情報の大切さを踏まえ、個人情報を守る必要性に気付くことができる。	
活動例	教師の主な支援
時間	教師の発話例
1分	<p>会話文を読む。</p> <p>IDとパスワードを教えた花子さんの行動を、あなたはどのように思いますか。</p>
6分	<p>個で考え、意見を発表する。</p> <p>ゲームでもIDとパスワードは教えてはいけないと思う。</p> <p>知らない人なのに、本当の名前を教えてはいけないと思う。</p> <p>知らない人に顔を知られると怖いので、写真を送ってはいけないと思う。</p>
3分	<p>教師の話聞く。</p> <p>個人情報を守る必要性に気付くように説明する。</p>
5分	<p>今日の活動を振り返り、考えたことをワークシートに記入する。</p> <p>インターネット上で知らない人とゲームを通して仲よくなることも、個人情報は教えないようにする。</p>

学習活動例（発話例） 「9 情報メディアの利便性と危険性の理解」

ねらい：情報メディアによって得られた情報の扱い方を考えることを通し、不適切な情報に出合った際の対処法を理解することができる。	
活動例	教師の発話例
時間	
2分	<p>学習活動</p> <p>教師の主な支援</p> <p>1 問題場面をつかむ。</p> <p>このニュースを見たあと、あなたならどうする？</p> <p>教師の発話例</p> <p>「みなさんはインターネットを使いますか？私はいくつか使います。知りたいことがすぐに見付かるので、とても便利だと思います。」 インターネットを使うと様々な情報を手に入れることができますが、もし皆さんが次の情報を見付けたら、その後どう行動しますか。(シート配付) (配付後) ところでこの情報は、インターネット上で本当に見付けられたものですか？ 「家の近くの動物園から、ライオンが逃げ出しました。もしあなたが住む家の近くにその動物園があったら、この情報を見付けたら、この後みなさんどうしますか。」</p> <p>2 問題場面についてペアで意見交換をする。</p> <p>1. 1分程度自分で考える時間を設定する。 ・ 仲間指導で、その後の行動として考えられることを適宜助言する。 ・ 多様な意見を認め合うよう伝えることと、お互いの意見を尊重しながら話し合うよう行うことができるようにする。</p> <p>3 教師の話聞く。</p> <p>ウソの情報であったことを確認することと、世の中には正しくない情報があることを理解できるようにする。</p> <p>4 今日の活動を振り返って考えたことをワークシートに記入する。 ・ フェイクニュースを見付けたら、まずは親や先生に聞いてみる。当分分からないことは、みんなに広めない。</p>
6分	<p>教師の主な支援</p> <p>このニュースを見たあと、あなたならどうする？</p> <p>教師の発話例</p> <p>「まず、自分で考えましょう (1分)」 「それでは、ペアで意見交換をしましょう。」</p> <p>「このニュースを見れば、きっと慌てるでしょう。相手の行動が正しいということはありません。相手の意見の良いところを探しながら意見交換をしてください。」</p> <p>「実は (気付いた人もいたようですが)、このニュースは ウソ です。」 「2016年、熊本県でも大きな地震が起きました。夜に起きた大地震で、その後にある人がこのニュースを、写真付きで公開しました。(必要に応じて実際にアップロードされた写真を示す) このウソのニュースを信じた熊本の人たちは動物園に電話をしました。動物園の人たちは夜遅い中、ライオンやトラなどの猛獣が逃げているか確認して、動物園は大変なことになったそうです。ちなみにこのウソを発信した本人は、仕事を邪魔した罪で逮捕されました。このようなニュースを、フェイクニュースと言います。」 ※以下、指導プラン活動例の「説明の例」に基づき、正しい情報を得るコツと、フェイクを見付けた後の適切な行動について話す。</p>
3分	<p>教師の主な支援</p> <p>このニュースを見たあと、あなたならどうする？</p> <p>教師の発話例</p> <p>「1分程度自分で考える時間を設定する。 ・ 仲間指導で、その後の行動として考えられることを適宜助言する。 ・ 多様な意見を認め合うよう伝えることと、お互いの意見を尊重しながら話し合うよう行うことができるようにする。」</p> <p>ウソの情報であったことを確認することと、世の中には正しくない情報があることを理解できるようにする。</p> <p>今日の活動を振り返って考えたことをワークシートに記入する。 ・ フェイクニュースを見付けたら、まずは親や先生に聞いてみる。当分分からないことは、みんなに広めない。</p>
4分	<p>教師の主な支援</p> <p>このニュースを見たあと、あなたならどうする？</p> <p>教師の発話例</p> <p>「今日の活動を振り返って考えたことをワークシートに記入する。 ・ フェイクニュースを見付けたら、まずは親や先生に聞いてみる。当分分からないことは、みんなに広めない。」</p>

学習活動例 「9 情報メディアの利便性と危険性の理解」

安全	
指導項目の分類	情報メディアの利便性と危険性の理解
対象	小学校 (中学年)
ねらい	<p>情報メディアによって得られた情報の扱い方を考えることを通し、不適切な情報に出合った際の対処法を理解することができる。</p> <p>用語の解説</p> <p>・ 情報メディアとは、テレビや新聞、インターネットなどの伝達メディアや、文字や画像、音声などの表現メディアなどがあり、世の中には様々な手段を用いた情報がある。本プランでは、小学生がインターネット上で出合う可能性のある不適切な情報について扱う。</p> <p>・ 不適切な情報とは、ウソの情報で作られたニュース (フェイクニュース)、閲覧履歴に基づき表示される広告やリンクなど</p>
活動例	教師の主な支援
時間	
2分	<p>学習活動</p> <p>教師の主な支援</p> <p>1 問題場面をつかむ。</p> <p>このニュースを見たあと、あなたならどうする？</p> <p>教師の発話例</p> <p>「あるネット記事を紹介し、実際に広がった情報であることを伝えることと、児童が当事者意識をもって考えることができるようにする。」</p> <p>2 問題場面についてペアで意見交換をする。</p> <p>1. 1分程度自分で考える時間を設定する。 ・ 仲間指導で、その後の行動として考えられることを適宜助言する。 ・ 多様な意見を認め合うよう伝えることと、お互いの意見を尊重しながら話し合うことができるようにする。</p> <p>3 教師の話聞く。</p> <p>ウソの情報であったことを確認することと、世の中には正しくない情報があることを理解できるようにする。</p> <p>今日の活動を振り返って考えたことをワークシートに記入する。 ・ フェイクニュースを見付けたら、まずは親や先生に聞いてみる。当分分からないことは、みんなに広めない。</p>
6分	<p>教師の主な支援</p> <p>このニュースを見たあと、あなたならどうする？</p> <p>教師の発話例</p> <p>「あるネット記事を紹介し、実際に広がった情報であることを伝えることと、児童が当事者意識をもって考えることができるようにする。」</p> <p>「1分程度自分で考える時間を設定する。 ・ 仲間指導で、その後の行動として考えられることを適宜助言する。 ・ 多様な意見を認め合うよう伝えることと、お互いの意見を尊重しながら話し合うことができるようにする。」</p> <p>ウソの情報であったことを確認することと、世の中には正しくない情報があることを理解できるようにする。</p> <p>今日の活動を振り返って考えたことをワークシートに記入する。 ・ フェイクニュースを見付けたら、まずは親や先生に聞いてみる。当分分からないことは、みんなに広めない。」</p>
3分	<p>教師の主な支援</p> <p>このニュースを見たあと、あなたならどうする？</p> <p>教師の発話例</p> <p>「今日の活動を振り返って考えたことをワークシートに記入する。 ・ フェイクニュースを見付けたら、まずは親や先生に聞いてみる。当分分からないことは、みんなに広めない。」</p>
4分	<p>教師の主な支援</p> <p>このニュースを見たあと、あなたならどうする？</p> <p>教師の発話例</p> <p>「今日の活動を振り返って考えたことをワークシートに記入する。 ・ フェイクニュースを見付けたら、まずは親や先生に聞いてみる。当分分からないことは、みんなに広めない。」</p>

学習活動例（発話例） 「10 自分自身や他人に及ぼす心身の影響の理解」

ねらい： ネット依存の入り口の一つであるゲーム依存に着目して、その問題点を理解し、日常生活に支障を来さないように、はじめをつけてインターネットを利用する必要性に気付くことができる。	
活動例	教師の主な支援
時間	教師の発話例
2分	「ワークシートを読み、Aさんについて考えましょう。」
6分	<p>Aさんがこのままオンラインゲームに夢中になっていくと、どのようなことが起こると思いますか。</p> <p>「まず、自分で考えましょう。(1分間)」 「近くの友達とペアで考えを交流しましょう。」 「友達と話し合ったことについて発表してください。」</p>
2分	<p>「今回は、オンラインゲームに夢中になっているAさんについて考えました。オンラインゲームのほかに、インターネットにはいろいろな使い方がありますね。」 「インターネットを使いすぎると、心や体に次のような影響を与えると言われています。」</p> <p>※次の3つのことを黒板にカードを貼りながら話す。 「夢中になってやめられなくなる。」 「イライラしやすくなる。」 「落ち着かなくなる。」 「インターネットは便利ですが、よく考えて利用しないと、心や体に害を及ぼします。」</p>
5分	<p>「今日の学習を振り返り、自分の健康を守るために、どのようなことをワークシートに記入する。」 「仲間指導で記述を確認し、心や体に害を及ぼさないようにけじめをつけてインターネットを利用する必要性に気付いている児童に発表を促す。」 「情報モラルクイズに、本時の問題場面と関連のあるクイズがあることを紹介し、家族と一緒に挑戦してみようように勧める。」</p>

学習活動例 「10 自分自身や他人に及ぼす心身の影響の理解」

健康	
指導項目の分類	自分自身や他人に及ぼす心身の影響の理解
対象	小学校（中学年）
ねらい	ネット依存の入り口の一つであるゲーム依存に着目して、その問題点を理解し、日常生活に支障を来さないように、はじめをつけてインターネットを利用する必要性に気付くことができる。
用語の解説	ネット依存とは「勉強や仕事としまい、使う時間や方法を自分でコントロールできない」状態。
活動例	教師の主な支援
時間	教師の発話例
2分	<p>問題場面をつかむ。</p> <p>Aさんがこのままオンラインゲームに夢中になっていくと、どのようなことが起こると思いますか。</p>
6分	<p>問題場面について考える。</p> <p>「1分程度、自分で考える時間を設定する。」 「ペアで考えを交流した後、全体で考えを共有する。」</p>
2分	<p>「インターネット利用について、不適切な使用方法による心身への害について気付くように説明する。」</p>
5分	<p>「今日の活動を振り返って、考えたことをワークシートに記入する。」 「仲間指導で記述を確認し、心や体に害を及ぼさないようにけじめをつけてインターネットを利用する必要性に気付いている児童に発表を促す。」 「情報モラルクイズに、本時の問題場面と関連のあるクイズがあることを紹介し、家族と一緒に挑戦してみようように勧める。」</p>

ワークシート 「1 ネットいじめに遭遇したときの対処方法」

名前

同じクラスの友だちとグループチャットをしている花子さん。ある日、「新しいゲームを買ったよ」と書きこんだところ、花さんが入っていない別のグループチャットに次のような書きこみが...

花ちゃんの書きこみ、
じまみみたくい、
むかつくな...
書きこんじゃえ。

おもしろそう。
私も書きこもう。

よく分からないけれど、
ほかの友だちにも教え
ようっと。



次の日、教室に行くと、花さんのほうを見ながら友だちがひそひそ話をしています。その日は1日、友だちは花さんに話しかけてくれませんでした。

あれ、見た？ じまみしてるよ。
なんか、むかつく！

同感！むかつく～

調子にのってるよね！

そうだ、そうだ。
調子にのるな～

ネットいじめの「こわさ」って何だろう？

今日の活動をふり返って、考えたことを書いてみましょう。

ネットいじめにあったら...？ ネットいじめを見かけたら...？

ワークシート 「2 捉え方の違い、発信内容のよしあしの理解」

名前

ともみさんとゆいこさんは、音楽部に入っています。今は、10月に行われる発表会に向けて練習をしています。ある日のことです。

ゆいこさんは、ともみさんのえんそうがともよかったことをつたえたくて、練習を終えた夜に、ともみさんにメールを送りました。



あて先： ともちゃん
さし出し人： ゆいこ
けん名： がんばろう

ともちゃんの、今日のえんそう、
やばかった。
発表会に向けて、もっとがんばれ。

このメールをもらったら、あなたは どう思いますか？

今日の活動をふり返って、考えたことを書いてみましょう。

ワークシート 「3 情報を共有することの理解」

名前

タブレット端末のふせんきを使うと、いろいろな意見をすぐにつたえ合うことができます。クラスの目ひょうを決めるときに、このきょうを使って、みんなが意見を書きましました。

ところが…、



「きゅう食をたくさん食べてパワーをつける」と書いたのに、内ようが変わってる…。どうして?

じつは…、



れんさんの意見は、学級目ひょうとしてはよくないから直してあげよう!

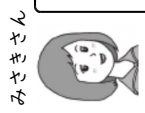
ほかの人の意見を勝手に書きかえてもいいのかな?

今日の活動をふり返って、気づいたことや考えたことを書いてみましょう。

ワークシート 「4 インターネット上での他者との関わり方の理解」

年 組 番 名前

みさきさんは、ネットで知り合った友だちと会うやくそくをしました。



SNSに写真をアップすると、いつもコメントをのこしてくれるまいさんがいます。同じ学年でとなりの小学校に通うまいさんは、私のとった写真をほめてくれたり、うれしくなるコメントをしてくれたりします。私も、まいさんのSNSにコメントするようになると、まいさんから、直せつメールがとどくようになり、少しずつなかよくなっていきました。私の中で『まいさんはいい人』というイメージができていたので、同じ学年ということもあり、一度会ってみたくまりました。

ネットで知り合った友だちと会う? 会わない?

みさきさんと同じ立場だったら、あなたは どうしますか。

会う 会わない を付けましょう。

なぜそう考えたか、理由を書きましょう。

ネットで知り合った友だちとのせし方で、気を付けたことは何ですか。

けんじさんは、ネットで知り合った友だちと会うやくそくをしました。



けんじさん

オンラインゲームでいっしょに遊ぶ人の中に、いつも同じチームになるこうたさんがいます。6年生のこうたさんは、キャラクターのそう作がとても上手で、ゲームのヒントを教えてくれたり、学校のことや友だちのことをメールで相談に乗ってくれたりする、たよりになるお兄さんです。こうたさんから、「こうりやく方法を教えるから、家に遊びに行ってもいいか」というメールがとどきました。うれしくなって、次の日曜日に会うやくそくをしました。

ネットで知り合った友だちと会う？会わない？

けんじさんと同じ立場だったら、あなたはどうしますか。

会う 会わない ○を付けましょう。

なぜそう考えたか、理由を書きましょう。

ネットで知り合った友だちとのせつし方で、気を付けたいことは何ですか。

友だちがかいた絵を、勝手にSNSにあげてもいいのかな？

花子さんと太郎さんは、一緒に夏休みの宿題をしています。



夏休みの宿題の絵は、もうかいだ？

ぼくは、まだかいてないんだ。どんな絵にしようかな。



私はもうかいだわ。

これが、その絵なんだけど、上手にかけなかったから、みんなに見せるのはははずかしいな…。

そうかな。上手にかけてると思うよ。

ちよつと写真撮らせて。



～夏休み明け～

登校した花子さんは、友だちから自分がかいた絵の写真が、自分の知らないうちに勝手にSNSにあげられていることを聞きました。そこに太郎さんがやってきました。



花子さんの絵がとてもすてきだったから、みんなにも見てもらいたいと思つて、SNSにあげておいたよ。

えっ…。どうして勝手にあげたの…？

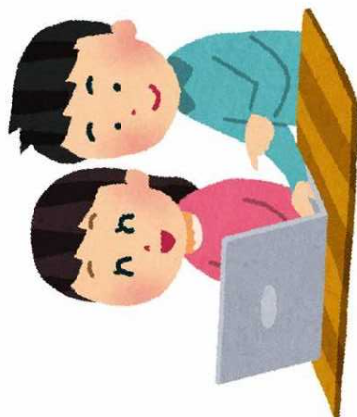
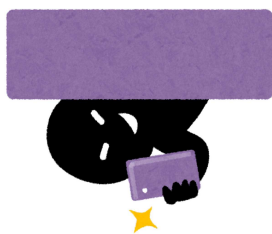
今日の学習をふり返つて、考えたことを書きましょう。

ワークシート 「6 撮影や描写を拒む権利」

名前

友だちの写真をとっていいのか？

友だちに気づかれないように、写真を撮っています。



写真を撮るときは

Four horizontal dashed lines for writing.

ワークシート 「7 強力なパスワードの重要性」

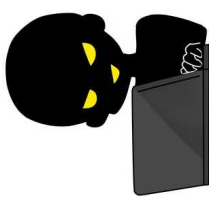
名前

【ひ害にあわないためにはどうすればよいでしょうか】



面白いからこのゲームサイトに会員登録しよう！パスワードは1028
忘れないように誕生日と同じ数字
でいいや。

そういえば、10月28日に「今日は誕生日！」という書き込みがあったな。1028。やっぱりそうだな！悪用してやろう！



自分になりすまされ、
うその情報を流された。
買ったはずのない物の高い
支払いを求められた。



今日の学習をふり返って考えたことを書きましょう。

ワークシート
「8 個人情報共有することのリスク」
名前

IDとパスワードを教えた花子さんの行動を、
あなたはどのように思いますか？



自分の情報を守るために気を付けることは何だろう？

Handwriting practice lines for the response to the question above.

ワークシート
「9 情報メディアの利便性と危険性の理解」

学習日 月 日 () 曜日

このニュースを見たあと、
あなたならどうする？



家の近くの動物園から
ライオンがにげだした！

1. このニュースを見たあと、あなたは次に何をしますか。話し合ってみましょう。



2. フェイクニュースについて考えたことや感じたことを書きましょう。

Handwriting practice lines for the response to the question above.

ワークシート 「10 自分自身や他人に及ぼす心身の影響の理解」

名前



Aさんは、オンラインゲームに夢中になっていて、夜中でも親にかくれてこっそりゲームで遊んでいます。ゲームに参加しないと、仲間はずれにされるのではないかと心配で、と中でやめられなくなっていきます。

Aさんは、朝寝坊するようになり、学校の授業中もゲームのことばかり考えています。休み時間に、友達とグラウンドで遊ぶのも面倒くさくなくなり、友達との関係がうまくいかなくなってきました。

Aさんがこのままオンラインゲームに夢中になっていくと、どのようなことがおこると思いますか？

今日の学習をふり返って考えたことを書きましょう。

【道徳科の授業展開例①：既に学習した複数の情報モラルに関する学習活動と関連させる】

道徳科	主題名「よく考えて、節度ある生活を」 A-(3) 節度、節制
対象	小学校（中学年）
実践のポイント	情報モラルに配慮し、節度を守ることの大切さや難しさについて考えることができるようにする。
授業のねらい	よく考えて行動し、節度ある生活をしようとする態度を育てる。
活用する教材等	「少しだけなら」（文部科学省「わたしたちの道徳 小学校三・四年」）
情報モラル教育の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○自分や他者の情報を大切にする。 <ul style="list-style-type: none"> ・通信ネットワーク上のルールやマナーを知る。 ・情報を守るための方法を知る。 ○健康のために利用の約束を守る。 <ul style="list-style-type: none"> ・情報メディアの利用による健康への影響を知る。
学習活動例との関連	<p>上記に関する学習活動例の実践後に位置付け、本時の話合いの際にこれまでの学びを想起させたり、ワークシートの振り返りの記述を活用したりする。</p> <p>(例)「ネットいじめに遭遇したときの対処方法」 「個人情報共有することのリスク」 「自分自身や他人に及ぼす心身の影響の理解」</p>

展開例

◆は情報モラル教育に関するもの

	学習活動・予想される児童の反応	教師の主な支援
導入	1 インターネット利用の実態について確認する。	
展開	<p>2 あつしさんの気持ちや行動について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お母さんと約束していたにも関わらず、あつしは、どのような思いからサイトをクリックしたのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・見るぐらいなら大丈夫だろう。 ・割引券をもらえるのか、気になるな。 ○一度目は諦めたのに、もう一度サイトに進み、名前を入力し始めたのは、どのような思いからだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・少しぐらいなら大丈夫だよ。 ・名前を入力するだけなら、たいしたことはないだろう。 ・これぐらいみんなもやっているのでは。 ○自分だったら、このようなとき、どのように思うだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・あつしと同じように考える気がする。 ・お母さんとの約束を思い出し、気になるけれど名前を入力はしない。 ○インターネットなどを使うときに、気を付けなければならないことは何だろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・便利だし楽しいこともあるけれど、怪しいサイトもあるので、よく考えて使うことが大切だ。 ・少しぐらいと思いがちだけれど、トラブルに巻き込まれることもあるから、利用するときの約束は守らなければいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を自分のこととして考えることができるよう、インターネットの利用に関する学級アンケートの結果を活用する。 ・「少しぐらいなら……」と考えたあつしの気持ちに共感する意見を採り上げることで、誰にでも誘惑に負けそうになる弱い心があることに気付くことができるようにする。 ・多様な考えがあることに気付くことができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験を基に考えを発表するよう促す。 ・なぜそのように考えたのか問い返すことで、多様な考え方に触れることができるようにする。 ◆怪しいサイトに名前を入力することで起こりうるトラブルについて触れるようにする。 ◆これまでの学習活動例の学習を想起させることで、情報モラル（「ネット上に悪口を書き込まない」「個人情報を教えない」「けじめを付けてインターネットを利用する」など）に配慮し、節度ある行動をとることの大切さや難しさに気付くことができるようにする。
終末	3 今日の学習を振り返って、考えたことや感じたことを記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・これからへの思いや願いをじっくりと考えることができるように、時間を十分に確保する。

【道徳科の授業展開例②：特定の情報モラルに関する学習活動例と関連させる】

道徳科	主題名「きまりを守ることの意義やよさ」 C-(12) 規則の尊重
対象	小学校（中学年）
実践のポイント	著作権に焦点を当て、社会のきまりの意義やよさについて考えることができるようにする。
授業のねらい	社会のきまりの意義やよさを理解し、それを守ろうとする心情を育てる。
活用する教材等	情報モラル教育 学習活動例「情報に関する自分や他者の権利(著作権)」
情報モラル教育の視点	○自分や他者の情報を大切にする。 ・情報に関する自分や他者の権利（著作権）を守ることの大切さに気付く。
学習活動例との関連	著作権について扱った学習活動例のワークシートを活用し、著作権をきっかけにして社会のきまりについて考えることができるようにする。

展開例

	学習活動・予想される児童の反応	◆は情報モラル教育に関するもの 教師の主な支援
導入	1 著作権について学習した内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 著作権についてのワークシートを使って、太郎さんの行為や著作権の内容を振り返ることができるようにする。 ◆著作権によって何が守られているかについて確認する。
展開	2 学習活動例の中の登場人物の気持ちを考える。 ○花子さんがかいた絵の写真をSNSにあげた太郎さんは、どんな気持ちだったろう。 ・花子さんがかいたすてきな絵をみんなに知ってもらいたい。 ・きっと花子さんも喜んでくれるだろう。 ○花子さんは、どんな気持ちだったろう。 ・たくさんの人に見られるなんて、恥ずかしい。 ・勝手にSNSにあげるなんてひどい。 ○著作権というきまりはどのようにして必要なのだろう。 ・花子さんがもっている権利を守るため。 ・花子さんの気持ちを守ってくれるから。	<ul style="list-style-type: none"> 太郎さんと花子さんの両方の気持ちを考えることで、太郎さんの行為が及ぼす影響について考えることができるようにする。 ◆太郎さんと花子さんの気持ちのすれ違いについて触れながら、著作権の意義やよさについて考えることができるようにする。
	3 きまりについて考える。 ○なぜ、きまりはあるのだろうか。きまりを守ることのよさはなんだろう。 ・きまりがないと、困ることがたくさんありそう。 ・自分だけでなく、いろいろな人を守ってくれる。	<ul style="list-style-type: none"> 著作権のほかに知っている権利やきまりを問うことで、社会のきまりについて考えることができるようにする。 きまりの意義やよさを考えることで、きまりを進んで守ることの大切さに気付くことができるようにする。
終末	4 今日の学習を振り返って、考えたことや感じたことを記入する。	<ul style="list-style-type: none"> これからへの思いや願いをじっくりと考えることができるように、時間を十分に確保する。

指導プランの年間計画への位置付け（小学校4年生の例）

	指導プラン	関連を図った指導が考えられる教科等の例	学校行事	位置付ける際の配慮事項
6月	活動例5 著作権 (SNSの書き込み) 活動例8 個人情報共有することのリスク (IDとパスワードを教える)	学活 (端末の利用約束の意味)	PTA授業参観	個人情報共有するリスクと書き込みの危険性について確認する。 (PTA学習参観の授業の教材とする。)
7月	活動例9 情報メディアの選択とその バランス (フェイクニュース) 活動例10 自分自身や他人に及ぼす心身の 影響の理解 (ゲーム依存) 道徳科① (節度、節制)	学活 (情報の信頼性) 理科 (天気と気温)	学年集会	・理科のインターネットを活用した調べ学習の前や集会活動で「安全」について考える。 ・長期休みの前に「健康」について考える。
8月	活動例6 撮影や描写を拒む権利 (写真の撮り方) 情報モラルクイズ (基礎編) …夏休みの課題	学活 (端末の利用時間等) 国語 (みんなで作る新聞を作ろう) 社会 (住みよいくらしをつくる)	フィールドワーク 全校集会	・国語と社会、学校行事等の写真を撮影する活動の前に「肖像権」について考える。 ・情報モラルクイズ (基礎編) は夏休みの課題とする。
9月	活動例2 捉え方の違い、発信内容の よしあしの理解 (メール上での言葉) 活動例3 情報を共有することの理解 (付箋の書き換え)	総合的な学習の時間 国語 (学校についてしよいかいすることを考えよう) 社会 (きょう土の伝統・文化と先人たち) 算数 (四角形の特ちょうを調べよう)		国語、社会、算数の付箋を活用した話し合いの前に情報を共有することについて考える。
10月	活動例1 ネットいじめに遭遇したときの 対処方法 (チャット上での悪口) 活動例4 インターネット上での他者との 関わり方の理解 (ネットで知り合う) 情報モラルクイズ (応用編) …秋休みの課題	総合的な学習の時間	PTA授業参観	情報モラルクイズ (応用編) は秋休みの課題とする。 (PTA学習参観の授業の教材とする。)
11月	活動例7 強力なパスワードの重要性 (他の 人に分かられにくいパスワードの工夫) 道徳科② 規則の尊重	総合的な学習の時間		活動例7 は難易度が高いので、年度後半に取り扱う。

(5) 情報通信端末の使用ルールはありますか。

①はい ②いいえ

※「①はい」を選んだ方にお聞きます。そのルールは、どのようにして決めましたか。

ア 家族が決めた イ 子どもと話し合ってから決めた
ウ 子どもが決めた エ その他

※「②はい」を選んだ方にお聞きます。お子さんは、そのルールを守っていますか。

ア 守っている イ やや守っている
ウ あまり守っていない エ 守っていない

※「②いいえ」を選んだ方にお聞きます。ルールがない理由を記入してください。

(6) お子さんが情報通信端末を利用するにあたって「非常に心配だ」と思うことは何ですか。(複数選択可)

- ①使いすぎにより、生活や勉強、健康に支障をきたす可能性
- ②詐欺や誹謗中傷などの不正行為の被害者になる可能性
- ③詐欺や誹謗中傷などの人間関係が希薄になる可能性
- ④家族または友人などとの人間関係が希薄になる可能性
- ⑤見知らぬ人と知り合ったり不適切な人間関係が生じる可能性
- ⑥不適切動画を投稿する可能性
- ⑦インターネットの世界へ逃避する可能性

(7) インターネットやゲーム等を通して、トラブルが起きたことがありますか。

①はい ②いいえ

※「①はい」を選んだ方にお聞きます。そのトラブルは、どのようなものでしたか。(複数選択可)

- ①誹謗・中傷・無視等
- ②個人情報流出や悪用
- ③ゲーム課金
- ④架空請求
- ⑤チャットメールや迷惑メール
- ⑥アダルトサイトや出会い系サイト
- ⑦その他

※その他を理由をご記入ください。

(8) 情報通信端末を使うときのマナーや気を付けることについて、お子さんと話をすることはありますか？

①よくある ②ときどきある ③あまりない ④ない

※その番号を選んで理由をご記入ください。

(9) 学校では情報モラル教育などの程度取り組んでいると思いますか。

- ①よく取り組んでいる
- ②時々取り組んでいる
- ③あまり取り組んでいない
- ④取り組んでいない

(10) 学校で行われている情報モラルに関する学習について、お子さんはご家庭でどのような話をしていきますか。

ご協力ありがとうございました。

ご家庭でのお子さんの情報通信端末についての調査にご協力をお願いします。(4年生になってからの状況について、ご記入をお願いします。)

秋田県総合教育センター

1. 趣旨
本アンケート調査は、秋田県総合教育センターがセンター研究として取り組んでいる「情報モラル教育の充実に向けた指導プランの提案」に関する基礎資料とするために行うものです。お答えいただいた内容は、本研究以外で使用することはありません。以下の質問について、ご家庭での様子を教えてくださいたいと思います。ご理解とご協力をお願いします。

情報モラルとは
他者への影響を考へること、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつこと、危険回避など情報を正しく安全に利用すること、コンピュータなどの情報機器の使用による健康との関わりを理解すること。

2. 回答方法と提出について
次の①が②のどちらからかで7月7日(金)までお答えください。

① お手持ちのスマートフォン等で右のQRコードを読み取ってください。アンケートにお答えいただき、送信してください。

② QRコードを読み取ることができない場合は、お手数ですがこの用紙にご記入いただき、学校に提出してください。

(制作中)

(1) お子さんが使用している情報通信端末(学校からの持ち帰りも含む)をすべて選択して、○印を付けてください。

パソコン・キーボード付きタブレット (Windowsタブレット、Chromebook など)	通信機能付きゲーム機
スマートフォン タブレット (iPad など)	

(2) お子さんは情報通信端末を一週間当たりどれくらい使っていると思いますか。

- ① 1日以下
- ② 2～3日
- ③ 4～5日
- ④ 6日以上
- ⑤ 使わない

パソコン、キーボード付きタブレット	スマートフォン、タブレット	通信機能付きゲーム機
-------------------	---------------	------------

(3) お子さんは情報通信端末を一日当たりどれくらいの時間使っていると思いますか。

① 30分未満	② 30分～1時間	③ 1～2時間	休日
④ 2～3時間	⑤ 3時間以上	⑥ 使わない	

(4-1) お子さんは、情報通信端末をどのように使っていると思いますか。(複数選択可)

- ①勉強(宿題、調べもの、一人勉強等)
- ②SNS(LINE、Twitter、メール、掲示板など)
- ③ゲーム
- ④インターネット(動画を見る、音楽を聞く等)
- ⑤絵や写真の撮影
- ⑥その他

(4-2) 勉強に、一日当たりどれくらいの時間使っていますか。

ア 30分未満	イ 30分～1時間	ウ 1～2時間	休日
エ 2～3時間	オ 3時間以上	カ 使わない	

※「⑥その他」を選んだ方にお聞きます。その使用方法を記入してください。

ご家庭でのお子さんの情報通信端末についての調査にご協力をお願いします。**（4年生になってからの状況について、ご記入をお願いします。）**

秋田県総合教育センター

1. 趣旨
本アンケート調査は、秋田県総合教育センターがセンター研究として取り組んでいる「情報モラル教育の充実に向けた指導プランの提案」に関する基礎資料とするために行うものです。お答えいただいた内容については、本研究以外で使用することはありません。以下の質問について、ご家庭の様子を教えてくださいと思います。ご理解とご協力をお願いします。

情報モラルとは
他者への影響を考へること、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつこと、危険回避など情報を正しく安全に利用すること、コンピュータなどの情報機器の使用による健康との関わりを理解すること。

2. 回答方法と提出について
次の①が②のどちらからかで7月7日（金）までお答えください。

- ① お手持ちのスマートフォン等で右のQRコードを読み取ってください。アンケートにお答えいただき、送信してください。
- ② QRコードを読み取ることができない場合は、お手数ですがこの用紙にご記入いただき、学校に提出して下さるようお願いいたします。



(制作中)

(1) お子さんが使用している情報通信端末（学校からの持ち帰りも含む）をすべて選択して、○印を付けてください。

パソコン・キーボード付きタブレット (Windowsタブレット、Chromebook など)	通信機能付きゲーム機
スマートフォン	
タブレット (iPad など)	

(2) お子さんは情報通信端末を一週間当たりどれくらい使っていると思いますか。

- ① 1日以下 ② 2～3日 ③ 4～5日 ④ 6日以上 ⑤ 使わない

パソコン、キーボード付きタブレット	スマートフォン、タブレット	通信機能付きゲーム機
-------------------	---------------	------------

(3) お子さんは情報通信端末を一日当たりどれくらいの時間使っていると思いますか。

① 30分未満	② 30分～1時間	③ 1～2時間	休日
④ 2～3時間	⑤ 3時間以上	⑥ 使わない	

(4-1) お子さんは、情報通信端末をどのように使っていると思いますか。(複数選択可)

- ① 勉強 (宿題、調べもの、一人勉強等)
- ② SNS (LINE、Twitter、メール、掲示板など)
- ③ ゲーム
- ④ インターネット (動画を見る、音楽を聞く等)
- ⑤ 絵や写真の撮影 ⑥ その他

(4-2) 勉強に、一日当たりどれくらいの時間使っていますか。

ア 30分未満	イ 30分～1時間	ウ 1～2時間	休日
エ 2～3時間	オ 3時間以上	カ 使わない	

※「⑥その他」を選んだ方にお聞きします。その使用方法を記入してください。

(5) 情報通信端末の使用ルールはありますか。

①はい ②いいえ

※「①はい」を選んだ方にお聞きします。そのルールは、どのようにして決めましたか。

ア 家族が決めた イ 子どもと話し合ってから決めた
ウ 子どもが決めた エ その他

※「①はい」を選んだ方にお聞きします。お子さんは、そのルールを守っていますか。

ア 守っている イ やや守っている
ウ あまり守っていない エ 守っていない

※「②いいえ」を選んだ方にお聞きします。ルールがない理由を記入してください。

(6) お子さんが情報通信端末を利用するにあたって「非常に心配だ」と思うことは何ですか。(複数選択可)

- ① 使いすぎにより、生活や勉強、健康に支障をきたす可能性
- ② 詐欺や誹謗中傷などの不正行為の被害者になる可能性
- ③ 詐欺や誹謗中傷などの人間関係が希薄になる可能性
- ④ 家族または友人などとの人間関係が希薄になる可能性
- ⑤ 見知らぬ人と知り合つて不適切な人間関係が生じる可能性
- ⑥ 不適切動画を投稿する可能性
- ⑦ インターネットの世界へ逃避する可能性

(7) インターネットやゲーム等を通して、トラブルが起きたことがありますか。

①はい ②いいえ

※「①はい」を選んだ方にお聞きします。そのトラブルは、どのようなものでしたか。(複数選択可)

① 誹謗・中傷・無視等 ② 個人情報流出や悪用 ③ ゲーム課金
④ 架空請求 ⑤ チャットメールや迷惑メール
⑥ アダルトサイトや出会い系サイト ⑦ その他

※その他を理由をご記入ください。

(8) 情報通信端末を使うときのマナーや気を付けることについて、お子さんと話をすることはありますか？

① よくある ② ときどきある ③ あまりない ④ ない

※その番号を選んだ理由をご記入ください。

(9) 学校では情報モラル教育などの程度取り組んでいると思いますか。

- ① よく取り組んでいる ② 時々取り組んでいる
- ③ あまり取り組んでいない ④ 取り組んでいない

(10) 学校で行われている情報モラルに関する学習について、お子さんはご家庭でどのような話をしていますか。

ご協力ありがとうございました。

情報通信端末についてアンケート②（今現在のじょうきょうについて、ご記入をお願いします。）

情報通信端末とは、パソコン、タブレット、スマートフォン、ゲーム機などのことです。

このアンケートでは、日ごろのようすについてしつもんします。
 □よい答え、わるい答えはありません。
 □せいせきにはかんげいしません。思ったとおりに答えください。
 □しつもんに対するこたえは、全てわくの中に数字や文章などで書いてください。

(1) 情報通信端末をお家でどのように使っていますか。(いくつでも選んでください。)

①勉強 ②SNS (LINE、旧 Twitter、TikTok、メール、掲示板など)
 ③ゲーム ④インターネット (動画、音楽など)
 ⑤絵や写真の撮影 ⑥その他

※「②SNS (LINE、旧 Twitter、TikTok、メール、掲示板など)」を選んだ人は、SNSを使うときに気を付けていることはありませんか。

※「⑤絵や写真の撮影」を選んだ人は、写真や動画を撮るときに気を付けていることはありませんか。

※「⑥その他」を選んだ人は、どのように使っていますか。

(2) お家にある情報通信端末にパスワードを設定していますか。

①はい ②いいえ

(3) お家に情報通信端末の使用ルールはありますか。

①はい ②いいえ

※(3)で、「①はい」と答えた人に聞きます。それは、どのようなルールですか。

※(3)で、「①はい」と答えた人に聞きます。その使用ルールを守っていますか。

ア 守っている イ どちらかといえば守っている
 ウ どちらかといえば守っていない エ 守っていない

(4) 全員、教えてください。「情報通信端末の使用ルール」は必要だと思いますか？その理由は、何ですか。

①必要だと思う。 ②必要だと思わない。

【理由】

(5) 4年生になってからの情報通信端末の使い方や使用方法などを振り返り、自分なりに工夫していることや、よくなってきていると思うことを書きましょう。

ご家庭でのお子さんの情報通信端末についての調査にご協力をお願いいたします。
(4年生 10月の状況について、ご記入をお願いいたします。)

秋田県総合教育センター

1. **本アンケート調査について**
 日頃より秋田県総合教育センターの研究「情報モラル教育の充実に向けた指導プランの提案」に関する取組にご協力いただきまして、ありがとうございます。春から取り組んできたことを振り返りながら、本調査に関する2回目のアンケート調査となります。春から取り組んできたことを振り返りながら、お答えいただければと思います。お答えいただいた内容は、本調査以外で使用することはありません。ご理解とご協力をお願いします。

2. **回答方法と提出について**
 次の①か②のどちらかの方法で10月30日(月)までお答えください。

- ① お手持ちのスマートフォン等で右のQRコードを読み取ってください。アンケートを表示できます。アンケートにお答えいただき、送信してください。
- ② QRコードを読み取ることができない場合は、お手数ですがこの用紙にご記入いただき、学校に提出して下さるよう、お願いします。

学校名



次の(1)～(6)について、お答えください。

(1) 情報通信端末の使用ルールはありますか。

①はい ②いいえ

※「①はい」を選んだ方にお聞きます。そのルールは、どのようにして決めましたか。

ア 家族が決めた イ 子どもと話し合って決めた
 ウ 子どもが決めた エ その他

※「②いいえ」を選んだ方にお聞きます。お子さんは、そのルールを守っていますか。

ア 守っている イ やや守っている
 ウ あまり守っていない エ 守っていない

※「②いいえ」を選んだ方にお聞きます。ルールがない理由を記入してください。

(2) 情報通信端末を使うときのマナーや気を付けることについて、お子さんと話をすることはありますか？

①よくある ②ときどきある ③あまりない ④ない

※その番号を選んだ理由をご記入ください。

(3) 学校では情報モラル教育にどの程度取り組んでいると思いますか。

①よく取り組んでいる ②時々取り組んでいる
 ③あまり取り組んでいない ④取り組んでいない

(4) 学校で行われている情報モラルに関する学習について、お子さんはご家庭でどのような話をしていますか。

裏面にもあります。

(5) 次の①～⑧に⑧に関して、お子さんの情報通信端末への関わり方で何か変化が見られましたか。当てはまる番号を選び、その変化の内容をご記入ください。(いくつでも構いません)

- ① SNSの利用について
- ② ルールやマナーについて
- ③ 写真やビデオの撮影(著作権)について
- ④ パスワード設定や個人情報情報の扱いについて
- ⑤ 危険性の理解について
- ⑥ 心身の影響を考えた行動などについて
- ⑦ 相手に分かりやすい表現の仕方について
- ⑧ 上記以外で工夫や改善が見られること

番号	お子さんの変化の内容

(6) 今、情報モラルについて思うことや感じていることを、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございます。

<引用・参考文献>

- 愛知県総合教育センター(2020)『研究紀要第110集 情報モラル教育に関する研究－児童生徒の情報モラルに関する意識調査と情報モラル教育の在り方－』
- 秋田県教育委員会(2022)『秋田県学校教育ICT活用に関する指針』
- 秋田県教育委員会(2021)『令和3年度学校教育の指針』
- 秋田県教育委員会(2022)『令和4年度学校教育の指針』
- 一般社団法人日本教育情報化振興会(2021)『ネット社会の歩き方ナビカード教材2』
- 高知県教育委員会(2015)『情報モラル教育実践事例集』
- 国立教育政策研究所(2011)『情報モラル教育実践ガイドンス』
- 仙台市教育委員会(2018)『仙台版情報モラル教育実践ガイド②』
- 鳥取県教育委員会(2021)『学習指導要領に基づいた情報活用能力体系表』
- 文部科学省(2017)『小学校学習指導要領』
- 文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社.
- 文部科学省(2021, 2020, 2019, 2018)『情報化社会の新たな問題を考えるための教材 <児童生徒向けの動画教材, 教員向け指導手引き>』
- 文部科学省(2019)『【情報活用能力の体系表例 (IE-Schoolにおける指導計画を基にステップ別に整理したもの)】(令和元年度版)』全体版
- 文部科学省生涯学習政策局情報教育課(2015)『情報モラル実践事例集』
- LINE株式会社(2021)『SNSノート (情報モラル編)』
- 独立行政法人情報処理推進機構 #今こそ考えよう情報モラルセキュリティ. <https://ipa.go.jp/security/imakoso/>
- 文部科学省情報モラル学習サイト. <https://www.mext.go.jp/moral/#/>
- learningBOX株式会社クイズ作成ツールQuizGenerator. <https://QuizGenerator.net>

センター研究 1

情報モラル教育の充実に向けた指導プランの提案 (2年計画・2年次)

学校の情報モラル教育に関する課題解決に向けた方策

方策1
小学校情報モラル教育
系統表の作成

方策2
情報モラル教育に関する
指導プランの作成

○発達の段階に応じた指導
○学校全体の取組
○悩んでいる教師への支援

○指導の時間不足解消
○指導する教師への支援
○家庭との連携

2 / 13

【～タブレットを初めて使う～から2問出題】

チャットは二人だけで行う会話である。

チャットは、複数（ふくすつ）の人がリアルタイムに文字を入力してコンピュータネットワーク上で会話することだよ。雑談（ざつだん）という意味もあるよ。

主幹（兼）班長
主任指導主事

指導主事

日 沼 良 樹
木 村 美奈子
山 田 直 康
大 友 正 純
鈴 木 紀 子
森 川 剛
斉 藤 誠 良
八 藤 英 子
稲 岡 寛
木 村 ふさ子
小 西 一 幸
菅 原 徳 浩